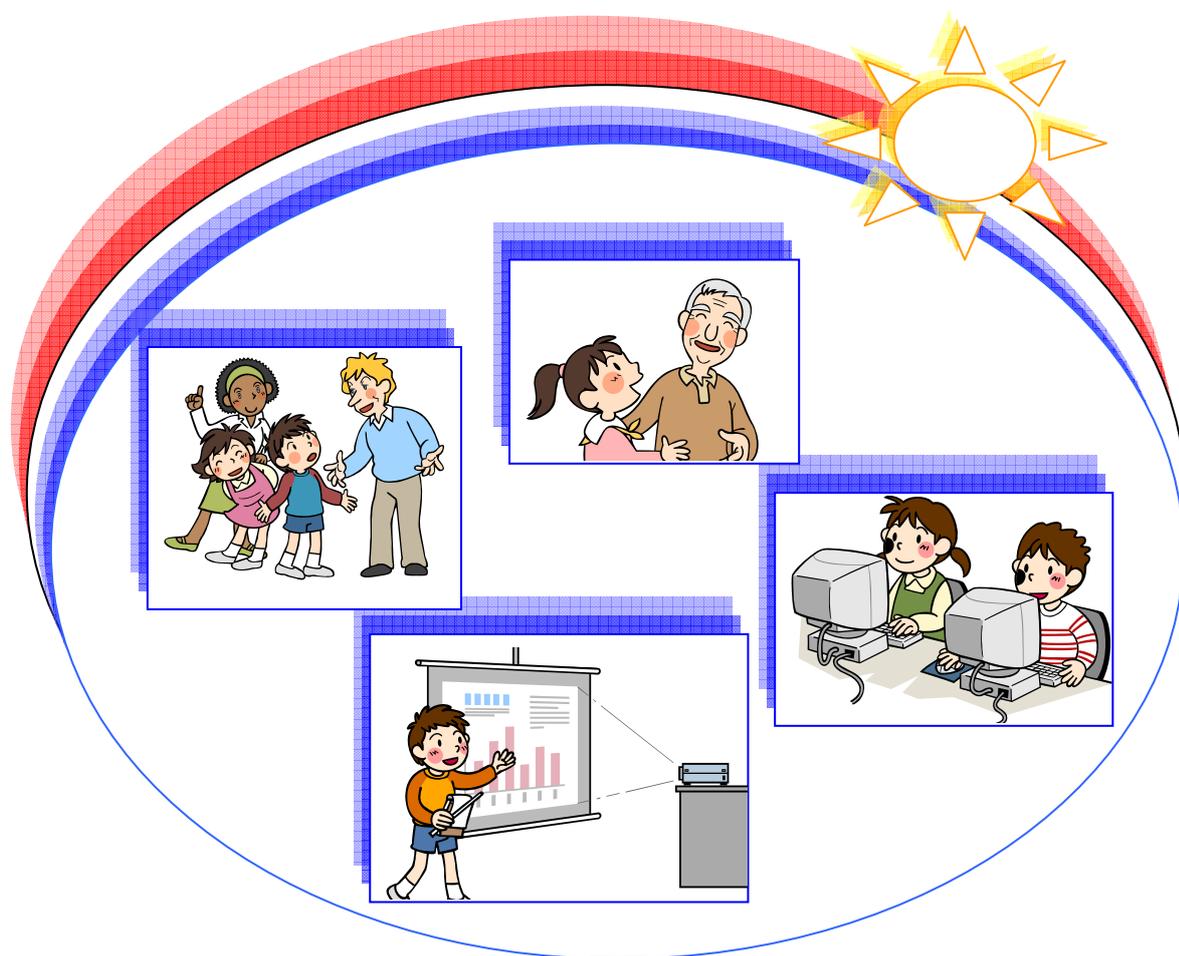


実りある「総合的な学習の時間」の実現のために

実践から学ぶ指導の充実とカリキュラムの改善



栃木県総合教育センター

平成18年3月

## はじめに

平成 15 年 12 月に学習指導要領の一部が改正され、「総合的な学習の時間の一層の充実」が求められました。さらに、平成 16 年 10 月にまとめられた中央教育審議会答申では、「総合的な学習の時間については、大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも達成されていない状況も見られる」ことが指摘されるとともに、総合的な学習の時間の重要性を踏まえた改善や支援策の充実が必要であることが述べられています。生きる力をはぐくむために創設された総合的な学習の時間が充実することは、学習意欲と学びの質の向上、確かな学力の育成につながるものと考えます。

創設から 7 年、本県の小学校及び中学校の多くの学校では、総合的な学習の時間の全体計画が作成され、地域や学校の実態等に応じた総合的な学習の時間が展開されています。実践をとおして、児童生徒の望ましい変化や成長、家庭や地域との連携の深まりなど、総合的な学習の時間の多様な可能性を感じている教師は少なくありません。この時間が、子どもたちにとって実り多いものとなるよう、各学校が主体性と創造性を発揮して、今後とも前向きに取り組まれることを期待します。

本冊子は、すでに行われている実践の成果と課題を把握し、総合的な学習の時間の充実につなげるための考え方と方策についてまとめたものです。各学校における総合的な学習の時間のさらなる充実のためにご活用ください。

終わりに、本冊子の作成に当たって調査にご協力いただいた各学校、関係機関の方々に、深く感謝申し上げます。

平成 18 年 3 月

栃木県総合教育センター所長

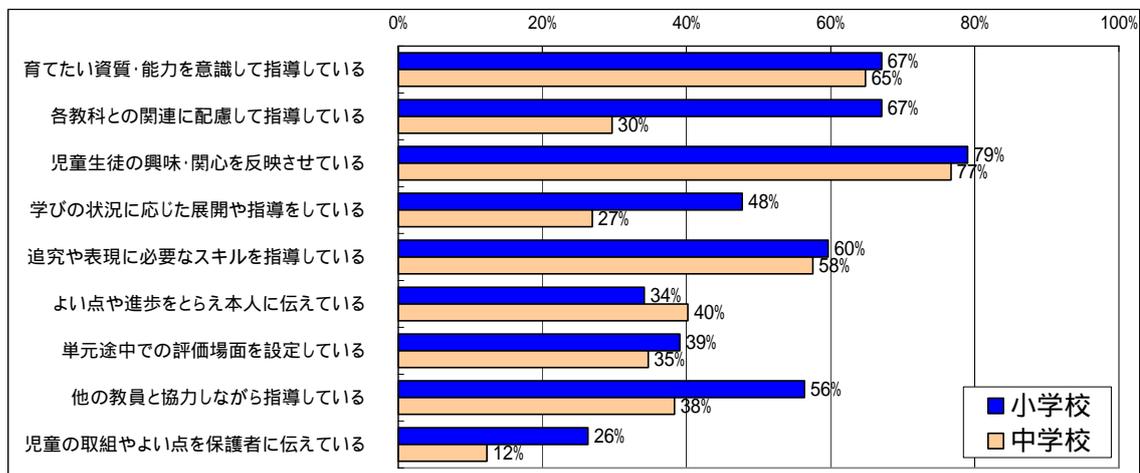
佐藤 信勝

## 調査研究の概要について

平成16年度に実施した「『総合的な学習の時間』に関するアンケート調査」結果では、教師の多くが、児童生徒の主体的な学習活動を重視し、育てたい資質や能力を意識して指導に当たっていること（図1）や、児童生徒に様々な力が身に付いてきていることを感じていること（図2）が分かりました。その一方、児童生徒のよい点や進歩の状況をとらえて本人に伝えている教師は少なく、児童生徒にどんな力が身に付いてきているかをとらえることが難しいという課題も浮かび上がってきました（図1）。

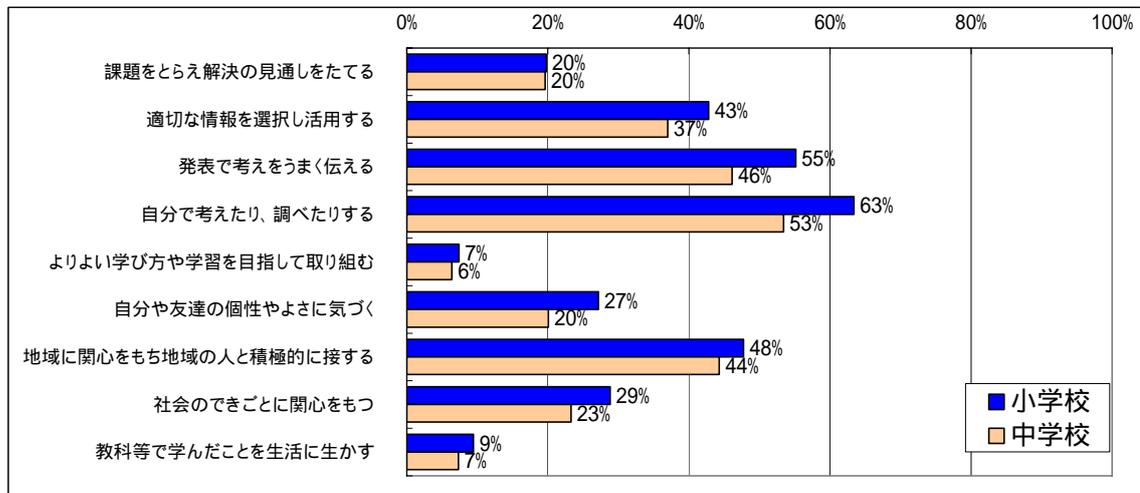
質問：あなたは、「総合的な学習の時間」を指導する際に、以下のことを行っていますか。（複数回答）

図1



質問：「総合的な学習の時間」を実施する以前と比べて、児童生徒には、どのような変化がありましたか。（複数回答）

図2



実施：平成16年11月～平成17年1月

対象：小学校教員 243名、中学校教員 219名(教職5年目、10年目、20年目研修受講者)

そこで、本年度は、下記の小学校に聴き取り調査を行い、総合的な学習の時間の指導やカリキュラムの改善を図るためにおさえておきたいことを整理して、本冊子にまとめました。単元開発や授業づくりのポイントを整理し、それらを共有することは、各学校におけるこれまでの取組について、その成果を確認するのに役立つとともに、さらに多様な実践を生み出す手がかりになるものと考えます。

なお、本冊子の作成に当たっては、宇都宮大学教育学部松本敏教授に、ご指導、ご助言をいただきました。

調査協力校（聴き取り調査：平成 17 年 7 月～8 月）

- ・宇都宮市立国本中央小学校
- ・足利市立青葉小学校
- ・栃木市立栃木第四小学校
- ・那須町立高久小学校
- ・那珂川町立武茂小学校（旧馬頭町立武茂小学校）

# 目次

|  |    |
|--|----|
| <b>第1章 「総合的な学習の時間」の指導を充実させるための視点</b> . . . . . | 1  |
| 視点1 各教科等との関連を図る . . . . .                      | 2  |
| 視点2 課題を見付ける力を育てる . . . . .                     | 7  |
| 視点3 主体的な追究活動を支援する . . . . .                    | 12 |
| 視点4 児童に評価をフィードバックする . . . . .                  | 18 |
| 視点5 教職員の協力体制を生かす . . . . .                     | 24 |
| <br>   |    |
| <b>第2章 実践の成果や課題をカリキュラムの改善につなげる方策</b> . . . . . | 29 |
| 1 実践の記録や資料をその後の学習や指導に役立てる . . . . .            | 31 |
| 2 計画や実践を評価し、カリキュラムの改善につなげる . . . . .           | 33 |
| <br>   |    |
| <b>資料</b> . . . . .                            | 37 |
| ・「総合的な学習の時間」に関するアンケート . . . . .                | 38 |
| ・「総合的な学習の時間」のチェックポイント . . . . .                | 44 |

# 第1章

## 「総合的な学習の時間」の指導を充実させるための視点

### [ 活用の仕方 ]

「せっかく苦勞して指導したにもかかわらず、指導した充実感がない」、「子どもたちも指示されないと動けず、盛り上がり欠けていた」・・・。  
このように感じたことはありませんか？

この章では、「総合的な学習の時間」の学びが活性化し、児童と教師がより充実感を得られるよう、指導の改善に役立つ方策についてまとめました。  
「指導に当たって大切なことを確認したい」、「充実した学習活動にするためのヒントを得たい」というときの手がかりにしてください。

#### 基本的な考え方

適切な指導を行うために確認しておきたい  
考え方や大切なことを説明しています。

#### 実践事例

参考となる事例を紹介し、工夫されている点  
を解説しました。

# 視点1：各教科等との関連を図る

## 基本的な考え方

### 1 「知の総合化」を一層推進する

確かな学力を育成するためには、「知の総合化」を図るという視点で自校の総合的な学習の時間と各教科等との関連を見直し、指導計画や授業の改善に生かしていくことが重要です。

学習指導要領の一部改正では、総合的な学習の時間のねらいとして、「各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」が明記されました。また、「各学校において全体計画を作成すること」や「学校で定めた目標及び内容に基づき、児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと」などが求められています。

#### 学習指導要領の一部改正(平成15年12月)で、総合的な学習の時間に関して追加されたこと

各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにする。

各学校において総合的な学習の時間の趣旨及びねらいを踏まえ、目標及び内容を定める必要がある。

各学校において総合的な学習の時間の全体計画を作成する必要がある。

総合的な学習の時間の目標及び内容に基づき、児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行う必要がある。

(「小学校学習指導要領」第1章より抜粋)

#### 総合的な学習の時間と教科等との関連についての取組に関する教員の意識(小学校担任)

\* ( )内の数値は、「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計

- ・教科の枠を越えた横断的・総合的な課題(国際理解、情報、環境、福祉・健康、社会のしくみや職業など)について学習できる。(79.7%)
  - ・自分で調べたり、考えたりするなど、積極的に学習する意欲や表現する力が身に付く。(70.8%)
  - ・教科で学んだ知識や技能を実際の場面で活用できるようになる。(50.4%)
  - ・単なる体験になっており、教科等との関連が不十分で、学力が身に付かない(55.2%)
  - ・教科の時間が減っており、基礎的・基本的な内容の学習がおろそかになる(65.6%)
- (「義務教育に関する意識調査」報告書(平成17年11月)より)

### 2 総合的な学習の時間と教科等との双方向の関連を意識する

総合的な学習の時間と各教科等との関連については、次の二つの方向があることを意識して授業を構想し、指導に当たることが大切です。

まず、「各教科等で学んだことを総合的な学習の時間に生かす」という方向では、教科の学習内容と関連させたり、発展させたりする扱いが考えられます。次に、「総合的な学習の時間で学んだことを教科の学習に生かす」という方向では、体験や探究の過程で得たものや、問題把握、表現、多面的な考察などの力を教科の授業で生かすことが考えられます。学習の過程で児童が獲得した力を一層発揮できるようになるよう、総合的な学習の時間と教科等と双方向の関連を意識し、意図的・計画的に指導していくことが重要です。

### 3 「育てようとする資質・能力」という視点から関連を吟味する

各教科等との関連を図ることは、次のようなメリットがあります。

- ・総合的な学習の時間における指導と各教科等で行う指導の重複を避けると同時に、関連付けによる相乗効果を生むことが可能であり、結果的に時間的余裕を生むことが期待できる。
- ・具体的な検討を通して教師が関連を実感し、指導に生かすことができる。
- ・総合的な学習の時間で行う学習が適切であったかどうかを評価できる。

これまでも、各学校においては、各教科等との関連を図る努力がなされてきています。すでに、本県の多くの学校では、総合的な学習の時間の全体計画は作成され、関連を洗い出して表記する作業も進んできています。しかし、あれもこれもと欲張りすぎていたり、学習内容との関連を意識しすぎたりして、資質・能力の関連を見失いがちであるということが見受けられたことも確かです。総合的な学習の時間では、教科横断的な内容を扱うことが多いため、形式的に関連付けようとすると、必要以上に関連項目が出てきてしまいメリットにつながりません。

関連を図ることの目的は、児童の資質や能力を効果的に伸ばすことですから、関連させることの意味を問い直し、関連を図る必要のあるものに重点化する必要があります。大切なのは、関連を図ることが効果的であるかどうかを判断することです。

そこで、次の例を参考に、必要な関連が明確になっているかどうかを確認してみてください。

各教科等との関連について確認する視点（例）

#### 関連の深い教科や領域の明確化

(【事例1】)

無理に関連付けてかえって焦点が絞れなかったり、関連付けるだけで実質的な意味がなかったりすることのないよう、関連の深いものに限る。

#### 「育てようとする資質・能力」の関連の洗い出し

(【事例2】)

「育てようとする資質・能力」という視点で見たときに関連のある学習内容や指導事項を明確にする。

#### 重点化の判断

各教科等と総合的な学習の時間でねらいが重複する内容について、相乗効果をねらって両方で実施するのか、より効果的な方に重点化するのかを判断する。

#### 指導計画の作成・修正

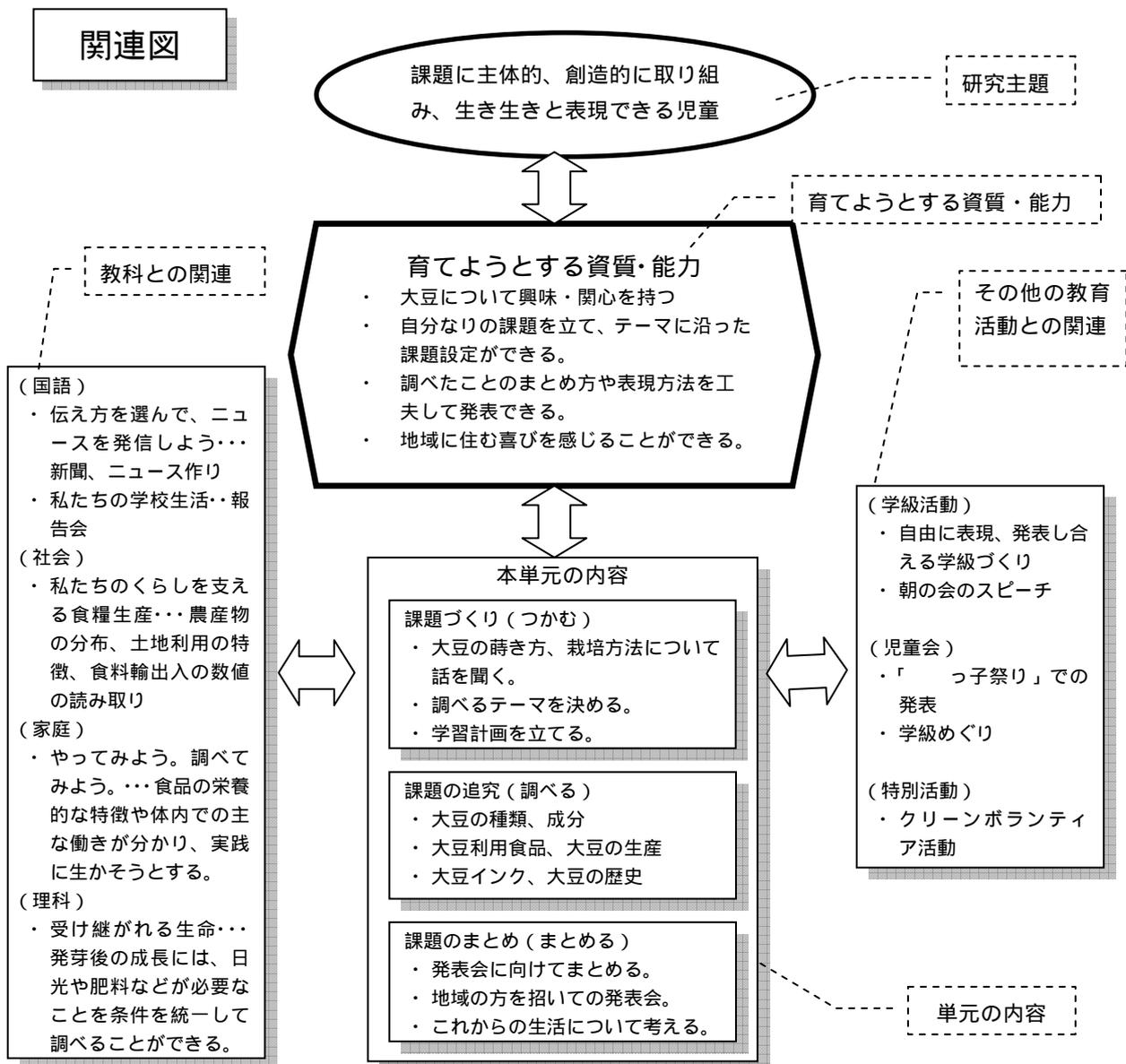
見直したことを指導計画に反映させ、共通理解を形成する。

【事例1】 単元ごとに教科等との関連を明確にする

- 関連図の作成により共通理解を図った取組 -

この事例では、単元ごとの指導計画の冒頭に、統一様式の「関連図」を示すことにより、視覚的に関連を意識できるよう工夫しています。

「育てようとする資質・能力」のうち、研究主題と密接な部分を強調するために太字で表現し、「教科との関連」と「その他の教育活動との関連」を左右に振り分けるなど、バランスを考えた配置となっています。このように、工夫された統一様式で関連図を作成することは、全校的な共通理解を進めることに加え、関連の見直しを図るうえでも有効な手法といえます。



**【事例2】 育てようとする資質・能力の分析から教科等との関連を明確にする**  
**- 問題解決能力と関連の深い教科に絞り、共通理解を図った取組 -**

この事例では、育てようとする資質・能力のうち、「問題解決能力」に焦点を当て、そのとらえ方を表1のようにまとめています。「必要な力」の欄には、問題解決に必要な力を児童の姿に重ね、より具体的な「          の力」として表しています。また、その力を育てるための具体的支援を「手立て、教科での力点等」の欄に示しています。作成にあたった先生方は、「問題解決能力」の育成は、総合的な学習の時間だけではなく、日々の教科指導が重要であることを再認識したそうです。また、特に国語科との関連を明確にすることが大切であると考え、国語科の各学年の学習内容を整理し、表2のようにまとめています。こうした作業は、総合的な学習の時間で育てようとする資質・能力と教科における学習内容との関連を具体的に共通理解するうえで、大変役に立ったそうです。

表1：問題解決能力についてのとらえ方

| 活動   | 必要な力            | 具体的な児童の姿（項目）  | 手立て、教科での力点等  |
|------|-----------------|---|--|
| 集める  | 情報を集める力 ア       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな情報の集め方を知っている。</li> <li>・ どのような方法で情報を集められるかを考え、決めることができる。</li> <li>・ コンピュータなどを使って情報を集めることができる。</li> <li>・ 参考となる図書を集めることができる。</li> <li>・ 新聞記事から情報を集めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (情報活用力)</li> <li>・ 3、4年国語「本のさがし方」、学活「図書室の使い方」、県立図書館の利用</li> <li>・ 3年国語「みんな子どもだった」</li> <li>・ 4年国語「インタビュー名人になろう」</li> <li>・ ロールプレイ的練習</li> <li>・ 4年国語「生活を見つめて」</li> <li>・ 支援シート</li> </ul> |
|      | 尋ねる力 イ          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インタビューすることができる。</li> <li>・ アンケートを取ることができる。</li> <li>・ 電話、手紙、FAXを利用できる。</li> </ul>  |  |
|      | 聞き取る力 ウ         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大切なことを落とさず聞ける。</li> <li>・ 聞き逃したことや不明な点を質問できる。</li> <li>・ 大切なことをメモしながら聞ける。</li> </ul>   |  |
| 調べる  | 読み取る力 エ         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章を読み取ることができる（辞書の利用）。</li> <li>・ 地図を読み取れる（方角等）。</li> <li>・ グラフやデータを読み取れる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語</li> <li>・ 社会</li> <li>・ 社会、算数、理科</li> </ul>   |
|      | 考察する力 オ         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことが課題に即しているか判断できる。</li> </ul>   |  |
|      | 機器活用の力<br>構想する力 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジカメ等の機器を有効に使うことができる。</li> <li>・ いろいろなまとめ方を知っている。</li> <li>・ 自分の目的に合ったまとめ方を決め、計画を立てることができる。</li> </ul>   |  |
| まとめる | 書く力 ク           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誤字、脱字がなく、正しい表記ができる。</li> <li>・ 読みやすく表記できる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数（3年：棒グラフ、4年：折れ線グラフ、5年：帯(円)グラフ）</li> </ul>   |
|      | 表す力 ケ           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かりやすい文章に直したり、まとめたりできる。</li> <li>・ 地図や図、グラフなどで視覚的に表現できる。</li> </ul>  |  |

表 2：総合的な学習の時間に関連する国語科の単元・教材

| 内容            | 学年 | 単元名・教材名                  | 関連する力       | 内容                       | 学年      | 単元名・教材名                 | 関連する力           |
|---------------|----|--------------------------|-------------|--------------------------|---------|-------------------------|-----------------|
| 手紙を書く         | 3年 | しょうたいじょうをつくろう(招待状の書き方)   | イク          | 話し合い                     | 5年      | 私たちはこう考える(計画的に話し合う)     | オキ              |
|               | 4年 | お元気ですか(手紙の書き方のきまり)       |             |                          | 5年      | 「子ども環境会議」を開こう(会議の進め方)   |                 |
|               | 5年 | 依頼の手紙、お礼の手紙              |             |                          | 6年      | 学級討論会をしよう(討論の進め方)       |                 |
|               | 6年 | 問合せの手紙                   |             |                          | 6年      | 二つの意見から(考えを深めてまとめる)     |                 |
| 6年            |    |                          | 「推測する」ということ |                          |         |                         |                 |
| 伝えたいことをまとめて書く | 3年 | 知っている場所を教えます(整理して書く、段落)  | クケ          |                          | 発表会・報告会 | 3年                      |                 |
|               | 3年 | パンフレットを作ろう(調べたときのメモのしかた) |             | 3年                       |         | せつ明書をつくろう(横書きの書き方)      |                 |
|               | 4年 | 新聞記者になろう(事実を正確に伝えよう)     |             | 4年                       |         | 十さいを祝おう(心の残る発表会をする)     |                 |
|               | 4年 | グラフをもとに(グラフを読み取る)        |             | 4年                       |         | 生活を見つめて(報告の文章の書き方)      |                 |
|               | 5年 | 言葉の研究レポート(レポートの書き方)      |             | 6年                       |         | わたしの六年間(聞き手の心をつかむスピーチ)  |                 |
|               | 5年 | 読む人のことを考えて(難しい文章を書き替える)  |             | 6年                       |         | 自分の考えを発信しよう(説得力のある意見)   |                 |
|               | 6年 | ガイドブックをつくろう(効果的な書き方)     |             | 伝える                      | 3年      | 標識と言葉(「つたえる」ということを考える)  | クケ              |
|               | 6年 | 目的に応じて書こう(簡潔に書く、詳しく書く)   |             |                          | 5年      | わたしたちの学校生活(体験したことを伝える)  |                 |
| 話す・聞く         | 3年 | 道案内をしよう(確かめながら話す・聞く)     | イウ          | 辞典の使い方                   | 5年      | ニュースを伝える(逆三角形の構成)       | ア               |
|               |    | 電話で約束(電話で正しく伝え合う)        |             |                          | 3年      | 国語辞典たんけん(言葉の並び方・言葉の形)   |                 |
|               |    | インタビュー名人になろう(インタビューでの要点) |             |                          | 5年      | 国語辞典を使って(意味の選択・複合語の引き方) |                 |
|               |    | 「聞く」ということ                |             |                          | 4年      | 漢字辞典の使い方(漢字の画数の教え方・熟語)  |                 |
|               |    | 6年                       |             |                          | 敬語の使い方  | 6年                      |                 |
| 話し合い          | 3年 | 名前をつけよう(話し合いで大切なこと)      | オキ          |                          | 本検索     | 6年                      |                 |
|               |    | 4年                       |             | 無人島でくらすとしたら(意見をまとめる話し合い) |         | 6年                      | 本のさがし方(図書室の仕組み) |

コラム：教科で育もうと取り組んできた問題解決能力

例えば、理科では、問題解決能力を育成するための「問題解決学習」という指導スタイルが総合的な学習の時間の登場以前から研究されてきました。それは、問題の把握、仮説の設定、考案した実験方法の検討、といった多くの場面における判断を児童に行わせ、これらの過程を通して実験・観察の技能・表現、科学的な思考、関心・意欲・態度を一括して総合的に高めようというものです。この問題解決の過程は、総合的な学習の時間における追究の過程とほぼ同じといってよいでしょう。

ただ、この手法は、児童に委ねられる部分が多いため、時間がかかるという難点があります。もし、各教科で毎時間「問題解決学習」のスタイルで授業を進めたとすると、膨大な時間が必要となってしまいうでしょう。

教科の授業では、限られた時間で教科のねらいを達成することが求められます。教師はそれを実現するために、吟味した教材を提示し、その授業の目標に即した発問・指示により児童に教科で目標とした力を育む努力をしています。ですから、総合的な学習の時間が導入された現在において、通常の授業で行ってきた問題解決能力育成の一部は総合的な学習の時間で行うといった整理が必要なのではないでしょうか。

## 視点2：課題を見付ける力を育てる

### 基本的な考え方

#### 1 教師の思いと児童の興味・関心とのバランスをとる

各学校で年間指導計画や単元計画が作られると、担任が新たに計画を立てなくても授業ができる反面、計画に縛られて児童や教師の思いが生かされないという問題点が挙げられるようになってきました。

活動の計画はあくまでも仮のものでありますから、児童の実態や学習の状況によって、計画とは違った展開になることは十分にあり得ます。計画どおりに授業を行おうとすることより、育てたい力や活動のねらいを明確にし、児童の実態や状況に応じて柔軟に授業を展開していくことが大切です。育てたい資質や能力のことも、目の前の児童のこともしっかり考えて授業をすることが基本です。したがって、学級あるいは学年で共通課題を設定する場合には、教師の思いと児童の興味・関心とのバランスをとりながら決めていくようにします。教師と児童が対話しながら、一緒に相談して決めていくというのが、無理のない適切な方法でしょう。 (⇒【事例1】)

#### 2 学びの対象との出会いやかかわりを生かし、振り返りなどを十分にさせる

課題を見付ける力は、学習の結果として次第に身に付いていくものです。

専門家に話を聞く、現地を見学する、体験活動をするなど、体験的な活動による事実や本物との出会いは、学習への興味・関心を高め、児童の体験を豊かにすることに役立ちます。ただし、体験しただけでは課題を見付けることができない児童も少なくありません。そこで、教師は、児童が疑問や問題意識をもてるよう工夫をしたり適切にかかわったりする必要があります。 (⇒【事例2】)

例えば、体験的な活動を学習に生かすためには、体験後の振り返りが大切になります。体験後、すぐに課題を決めさせるのではなく、活動についての振り返りや話し合いを十分にさせましょう。ある程度時間をかけて、考えたり情報交換をしたりすることによって、児童は、次第に追究したいことを見付けることができるようになっていきます。このとき、考えを深めたり発想を広げたりする方法として、分かったことや知りたいことをイメージマップなどに描かせたり、対象と自分とのかかわりを考えてノートに書かせたりしておくことも有効です。

(振り返りのポイント)

- ・はじめて知ったこと
- ・分かったこと
- ・疑問に思ったこと
- ・気にかかったこと
- ・納得のいかないこと
- ・発見したこと
- ・おもしろかったこと など

こうした振り返りによって児童が自覚したことから、教師は、児童の興味・関心、問題意識などを探り、授業の展開について見通しを立てておくようにします。

### 3 「仮題」でスタートし、学び合いながら「課題」を見つけていく

学習の初期段階に、児童が主体的に取り組める課題を設定することは大切ですが、実際にはかなり難しいことです。とりあえず仮の課題でスタートし、体験や学び合いを経て、課題を見つけていくという学習の進め方が現実的なのではないでしょうか。

課題を固定的にとらえるのではなく、学習の過程における気付きや疑問を大切にしましょう。課題が発展していくところに、総合的な学習の時間らしさがあるともいえます。「はじめはあまり乗り気ではなかったけれども、だんだんおもしろくなってきて、やってみてよかった」と思えるような経験は、その後の学びを一層主体的にします。課題が「他人ごと」ではなく「自分ごと」になることで、学習意欲が高まり、対象について深く学ぶことができます。重要なのは、まだ関心や意欲が高まっていない児童の学習状況をよく見ながら、適切な支援を続けていくことです。

### 4 課題や活動を検討する機会を設ける

「自ら課題を見付け」ということが、小学校から高等学校までの総合的な学習の時間のねらいに共通して示されていることは、発達段階や学習経験を踏まえた段階的な指導が必要であることを意味します。

例えば、小学校の高学年であれば、次のような観点を児童に示して、課題を検討させたり、活動を振り返らせたりするのも一つの方法です。児童には、よい課題の条件を示し、教師間でも課題を検討するための観点を共通理解しておくといよいでしょう。こうした観点は、活動計画を立てるときだけでなく、中間発表や活動が停滞したときなどの振り返りにも役立ちます。課題を活動の途中で見直したり、時には、思い切って課題を修正したりすることで、学習が深まることがあります。

#### 課題を検討する観点の例

- ・調べる活動があるかな。
- ・考える活動があるかな。
- ・確かめる活動があるかな。

[ 児童 ]



- ・自分の生活や自分自身とのかかわりが意識されているか。
- ・その課題を追究したい理由が児童に明確になっているか。
- ・学級や学年の共通課題との関連があるか。
- ・容易に答えが出てしまう課題になっていないか。
- ・人や事象とのかかわりの中で、確かめる活動が盛り込めるか。
- ・発表や交流を意識した課題になっているか。
- ・おおよそ子どもたちの力で達成可能か。
- ・与えられた時間内に解決することが可能か。

[ 教師 ]

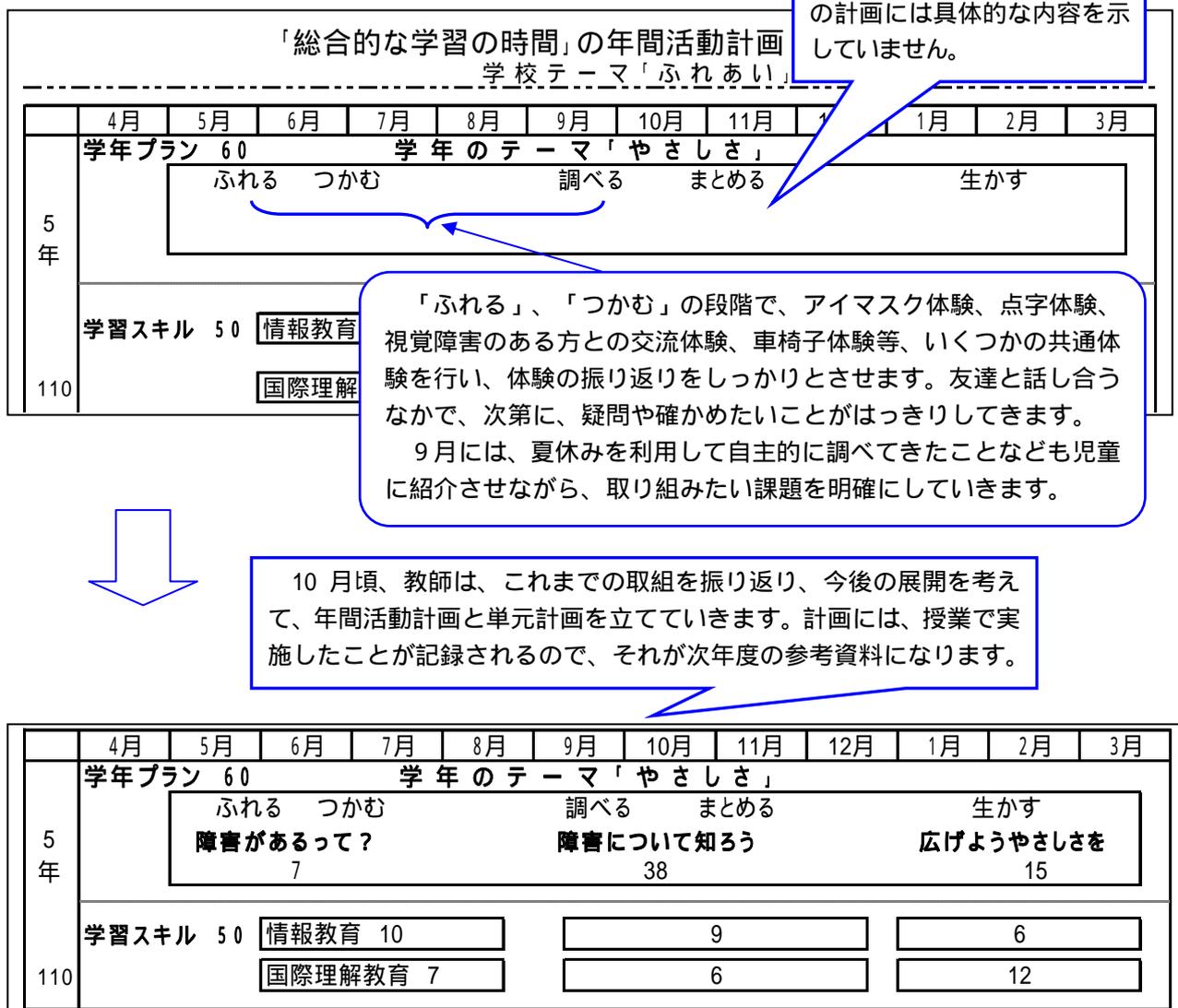


**【事例1】 課題や活動内容を、教師と児童と一緒に相談して決めていく  
担任と児童がじっくり時間をかけて、追究する課題を決めていく取組**

この事例では、学年のテーマと大まかな時数は決まっていますが、どのような活動をしていくのかについては、じっくりと時間をかけて、教師と児童が話し合いながら決めています。

課題づくりは、前年度末からスタートします。次年度どのような学習をしたいかを児童に問い、ブレインストーミングなどにより課題意識や思いを集約しておきます。こうして聴取した児童の思いを参考に、新担任と児童とで時間をかけて、これから1年間かけて追究していく課題を決めていきます。5月から7月は、共通体験を何度か取り入れ、体験の過程で出てくる児童の疑問と教師の思いを融合させるように配慮しながら、児童一人一人が課題を見付けられるよう指導しています。

第5学年「福祉」の取組





【事例2】 専門家の協力を得て学習内容への関心を高める

専門家に継続的にかかわってもらうことで深まりのある課題にしていく取組

この事例では、4月から5月にかけて専門家から話を聞き、各自の課題づくりに役立てています。例えば、第4学年の「ツバメの学校」では、野鳥の会の方から、ツバメの生態、巣づくり、子育てなどについて話を聞いたうえで、自分たちにできることは何かを考えて学習を進めていきます。第1次の追究が終わると中間発表を行い、再び野鳥の会の方を招いてアドバイスをしてもらいます。そのことが、自分の追究してきたことを振り返り、課題や追究の方法を見直したり、さらに深めるための課題を見付けたりするきっかけになっています。教師は、事前の打合わせで、授業のねらいと展開について野鳥の会の方に伝え、児童が自分たちで調べたり考えたりしようと思えるような話をしてもらったとともに、その後の学習にも継続的にかかわってもらっています。

●活動展開記入例

活動名 ツバメの学校 4月 9.41時間

- 1 活動の特性を生かしたねらい
  - ・ツバメの成長の様子を観察したり生態を調べたりすることで、自然を大切にする気持ちや環境への自分の関わりについて気付くようにする。(渡る国を調べることでその国に関心を持つことも考えられる)
- 2 育てたい力からのねらい
  - ア バランス力
    - ・ツバメ(自然)と人との関わり合いを考える力。
    - ・環境問題の難しさに気付く力
  - イ 情報力
    - ・参考書、インターネット等から自分の求める情報を見つけ出す力
    - ・模型を作る、デジカメで継続記録を撮るなど、伝わりやすい方法を選ぶ力
  - ウ 評価力
    - ・自分の観察記録が正確か、どうすれば良いかを考える力
    - ・友だちの観察などをみて、自分に参考になりそうなことを見つけようとする力

専門家に話を聞く活動を計画に位置付けています。

| 流れ                 | 時 | 学習活動  | ○主な支援(◎児童指導※人権)   | ☆育つ力<br>バランス 情報                   | 関わる人・準備                | 形態・場所<br>個 グ 全 |
|--------------------|---|---|---|-----------------------------------|------------------------|----------------|
| 1<br>ガイ<br>ダン<br>ク | 3 | ・具体的な姿◎活動のポイント<br>1「ツバメが安心して育っていく学校にしよう」<br>a ウェビング<br>b 連想<br>c 作文 等<br>1.2活動のポイントを確認する<br>◇ A 正確に観る<br>B 原因を考える<br>C 自然の!を見つけよう<br>1.3単元の流れを確認しよう<br>(1.4) 野鳥の会の人にツバメの話聞く   | を確認する<br>児童の表しやすい表現法や、単元として書きやすい方法で意識を文字に表しておくことで、児童が自分自身の姿容を捉えやすいようにしておく<br>この間に野鳥の会の方の話や、ビデオ等見たり聞いたりして関心を持てるようにしておくこともできる | ウ 自分の知っていること、知らないことを率直に書き表す       |                        | 全 教室で          |
|                    | 3 | 「どんなことができるかな・どんなことをしてみたいかな」<br>2.1自分たちができそうなこと。やってみよう<br>ア今すぐできる<br>イ調べたり聞いたりする必要がある<br>ウもう少し大きくなってからならできそう<br>・ツバメのひなを観察しよう<br>・ツバメについて調べよう<br>・いろいろな鳥についてしらべたいな<br>2.2 ぜんばいたちはどんな研究をしたのか調べよう<br>2.3 追究計画を立てよう<br>ア) 学校ですぐにできること | 来年度、自分たちの研究結果もこのように後輩に参考にしてもらえたら、これからの長期的な追究意欲を継続できるようにする   | イ 参考書や友だちの意見などから、自分が実行可能なことを見つけ出す | 野鳥の会の人 高松さん<br>昨年4年生先生 | 全 多目的室<br>個    |

野鳥の会の方は、学校や児童の様子をよく理解しているので、児童の質問に対して答えを出しすぎず、追究のヒントを与えるなど、適切に支援してくださっています。学習に継続的にかかわってもらい、追究が始まってからも、適宜、アドバイスをいただいています。

追究の途中で、こんなことがありました。児童たちは、毎日、ツバメの様子を観察して記録していましたが、ある日、巣が壊れ、ツバメのひなが落下して死んでしまいました。児童たちは、ツバメを埋葬し、その後、壊れにくい巣についての追究を始めました。自分たちで、いろいろな材料を考えたうえで、野鳥の会の方に質問し、ツバメの巣として適切な材料についてアドバイスをいただいていた。この活動では、途中でやむを得ず課題を修正しましたが、児童たちは、自然界で生きることの厳しさや、命の尊さ、ツバメの巣について学び、毎年学校にやって来るツバメに対する愛着を深めていました。

第4学年担任の言葉



## コラム： ゲストティーチャーに効果的にかかわってもらうために

事前の打ち合わせで、授業のねらいとゲストティーチャーに期待することをしっかり伝える

ゲストティーチャーを迎えて有意義な学習をするためには、事前の準備をしっかり行い、教師とゲストティーチャーの役割を明確にしたうえで授業に臨みましょう。ゲストティーチャーに期待することをはっきり伝えて、授業のねらいを理解してもらうとともに、相手の考えや意向を聞いて、教師とは違った「よさ」を発揮してもらえるようにすることが大切です。

このように、事前の打ち合わせは重要ですが、時間の確保が難しいのが現状です。そこで、短時間に必要な事項を話し合うことができるよう、打ち合わせで確認すべきことを整理しておくといいでしょう。次に示すものは、その一例です。

### 【教師とゲストティーチャーが共通理解を図っておきたいこと】

- ・ 学習のねらい、教師の考え
- ・ ゲストティーチャーに期待すること
- ・ 児童の実態（学年、人数、学習内容に関する経験、配慮を要する児童）
- ・ 活動場所、学校側で準備できるもの、協力者
- ・ 当日の日程、授業の流れ、時間配分
- ・ 教師とゲストティーチャーの役割分担  
（どの場面で、どのようにかかわってもらうのか）

\* 学校で打ち合わせに用いる用紙を統一した様式で作成し、記録を残しておくようにすると、次年度に引き継ぐことができ便利です。

その人だからこそ学べる内容を構成する

ゲストティーチャーは、必ずしも専門的な知識や技術をもっている人でなくてもよいでしょう。趣味やボランティアで体験されている方だからこそ学べる内容もあります。余暇を自分らしく、生き生きと文化的に過ごすことや、人や社会に積極的にかかわって生きているということも、自己の生き方を考える総合的な学習の時間だからこそ学べることであり、大切にしたいことです。その人の思いや生き方にふれることが「本物」との出会いになるのではないのでしょうか。

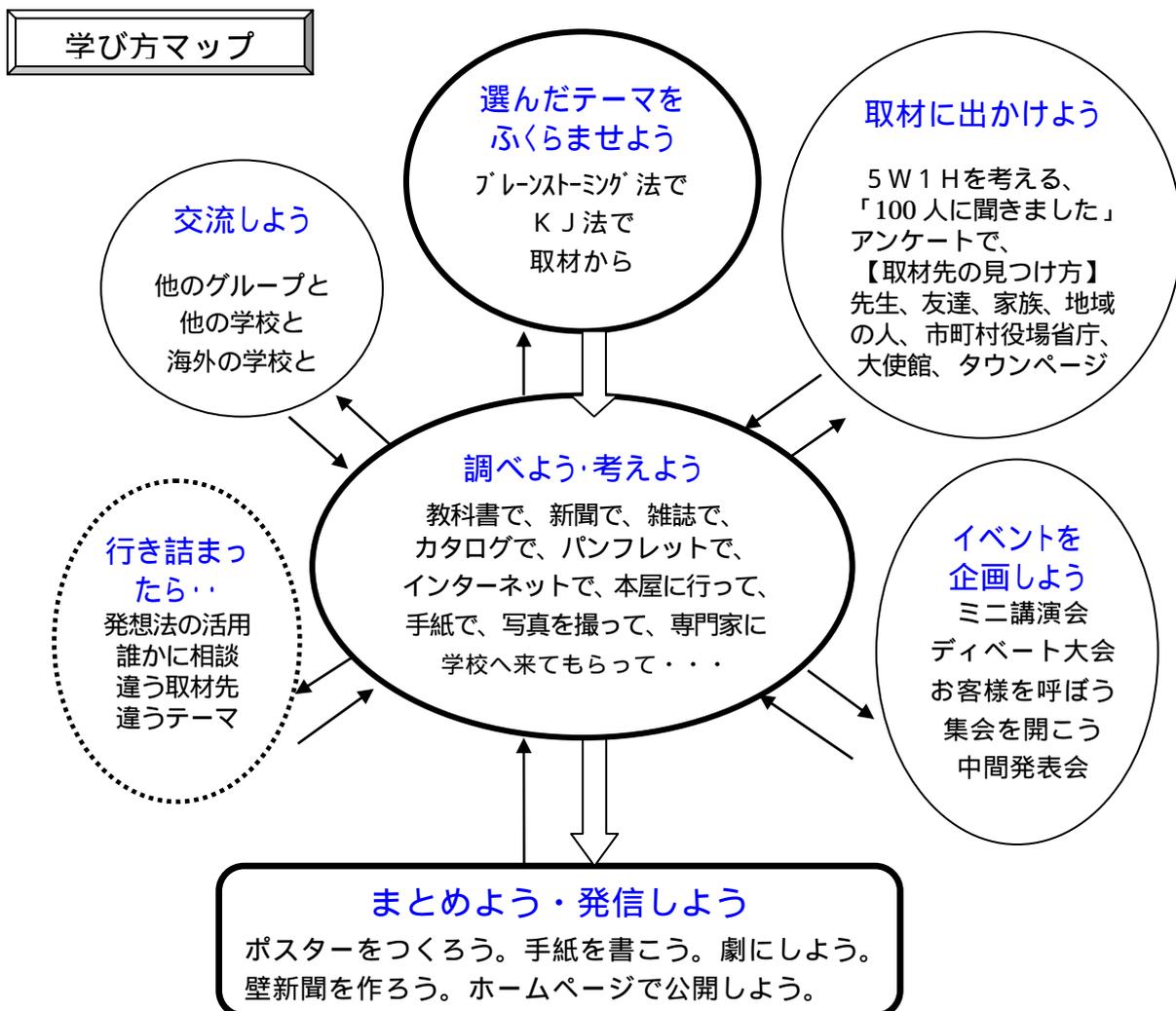
# 視点3：主体的な追究活動を支援する

## 基本的な考え方

### 1 学習の進め方のヒントを示すなどして、自己決定を促す

グループや個人で課題を追究する場面においては、学習が停滞することがあります。また、学習の方法や進み具合などが異なるために、何通りもの課題に教師が対応する必要が生じ、指導が難しいという状況もみられます。

そこで、多様な課題に基づく学習活動を支援するために、課題追究の段階で考え得る活動を整理して下の図のようにまとめてみました。これは、計画を示すものではなく、児童へのアドバイスを図式化したものです。進捗状況を見ながら活動を方向付けたり、活動が行き詰まっている児童に助言したりする際に役立ちます。また、このような図を示すことによって、児童は、多様な追究方法があることを知ったり、学習の進め方についてヒントを得たりすることができます。 (⇒【事例1】)



ただし、児童が、活動の途中で迷ったり、うまくいなくて考えたりしているときにも、教師は、「今、この子は何を学んでいるのか」ということをとらえようとするのが大切です。活動させることばかりに目が向いてしまうと、児童を追い立ててしまうことになりかねません。児童が、追究の過程で自分の学びを振り返り、自分はどのように考えていたのか、今はどうか、これからどうするかなどを考えて取り組んでいることが主体的な学習であるともいえます。このことは、児童が、学習の見通しとめあてをもつことにも関係します。学習の見通しとめあてをもたせるために、単元のはじめに活動計画表や自己評価票を配布し、学習の過程で自分の学びを記録していく習慣化を図ることも有効です。 (⇒【事例2】)

## 2 学習の手引きなどを活用して、追究に必要なスキルを指導する

児童が問題の解決や追究活動に主体的に取り組んでいくためには、学び方を理解していることが必要です。活動への関心や意欲が高まり、何をすればよいか活動の方向性が決まっても、実際に調べたり表現したりできなければ、学習を進めていくことはできません。追究や表現に必要なスキルを明確にし、それらが身に付くよう、教科等における学習との関連も考えながら具体的に指導することが大切です。

例えば、「手紙の書き方」、「電話のかけ方」、「インタビューの仕方」などの学習の手がかりになる手引きやワークシートを作成し、児童が必要に応じて使えるよう、これらを共有化し、支援に役立てている学校もあります。また、学習室、図書室、コンピュータ室などを整備し、部屋の使い方や資料の探し方などを児童にも分かるようにしておくことも、主体的な活動を支援することにつながります。 (⇒【事例3】)

児童が追究や表現に必要な知識や技能を身に付けることができるよう、これまでに整備してきた学習環境や作成してきた教材などを効果的に活用し、指導していきましょう。

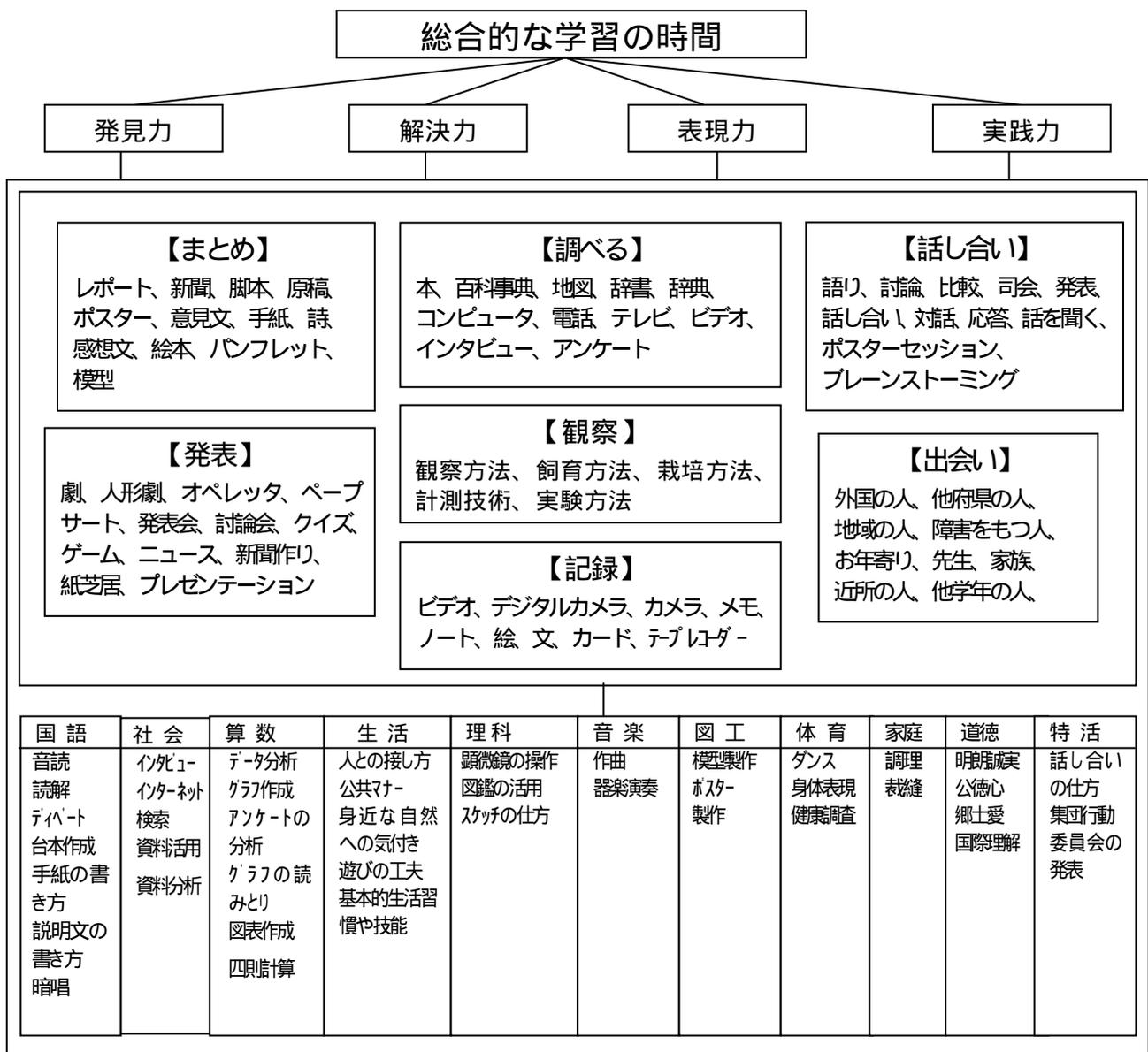
## 3 児童が学習に関する情報を共有できる機会や場を工夫する

児童の活動を支援するためには、折にふれて集団での情報交換の場を設けることも大切です。学習の進め方などについて学び合える機会や場を工夫することも、主体的な活動を支援する方法として有効です。それぞれの課題は異なっても、参考になる情報や意見を得ることができ、相互評価することによって新たな意欲が生まれることが期待できます。

例えば、学習室や通路などを利用して展示コーナーを設け、各学年の学習の様子と成果を知らせることで、意欲付けを図ったり学習の見通しをもたせたりすることに効果をあげている学校もあります。 (⇒【事例4】)

【事例1】 育てようとする資質・能力を明確にして学習活動を支援する  
 学びの方法を示した一覧表を作成し指導に役立てている取組

この事例では、育てようとする資質・能力と想定される学びの方法を示した一覧表を作成して指導に役立てています。このように、追究や表現に必要な活動や方法など示すことにより、教師は、総合的な学習の時間と各教科等の関連を意識して指導することができます。特に、総合的な学習の時間においては、児童が自分の課題に合った方法を選んで学習できるよう支援しています。



【事例2】 学習の見通しとめあてをもたせる

活動計画表と自己評価票を活用した取組 -

この事例では、児童が見通しをもって活動できるよう、活動計画表を単元の初めに配布しています。学習の段階を「第1ステージ」から「第4ステージ」、「ファイナルステージ」と名付け、親しみをもたせています。時間を無制限に与えることはできないので、時間配分のめやすを示し、児童が与えられた時間の中で計画的に追究できるよう支援しています。また、自分の学びを振り返る時間を確保し、自己評価票に記録させています。教師から励ましのコメントなどを返すことによって、児童の学びを支援しています。



**活動計画**

| 日     | 期          | 活動のめやす                                 |
|-------|------------|--|
| 10/15 | 1          | これからの学習について知ろう                         |
| 10/16 | 2, 3       | ごみへらしたんげんに出発!                          |
| 10/19 | 4, 5       | 自分が調べたいテーマを決めよう                        |
| 10/20 | 6          | 合言葉を決めよう                               |
| 10/26 | 7, 8       | グループで、調べる内容や調べ方、分組、まとめ方や発表の仕方について話し合おう |
| 10/29 | 9          | 調べよう 1                                 |
| 10/29 | 10, 11     | 調べよう 2                                 |
| 11/1  | 12         | 中間発表会 パート1                             |
| 11/2  | 13         | 中間発表会 パート2                             |
| 11/3  | 14         | 中間発表会 パート3                             |
| 11/5  | 15         | 中間発表会 パート4                             |
| 11/10 | 16         | 調べることや調べ方を話し合おう                        |
| 11/17 | 17, 18     | もっと調べよう 3                              |
| 11/18 | 19, 20     | もっと調べよう 4                              |
| 11/19 | 21, 22     | もっと調べよう 5                              |
| 11/19 | 23, 24     | まとめよう 1                                |
| 11/19 | 25, 26     | まとめよう 2                                |
| 11/24 | 27, 28     | まとめよう 3                                |
| 11/25 | 29, 30     | まとめよう 4                                |
| 11/25 | 31         | 発表のじゅんびをしよう                            |
| 11/26 | 32         | 発表のじゅんびをしよう                            |
| 11/27 | 33, 34     | 発表会を開こう                                |
| 11/27 | 35, 36     | みんなで体験してみよう                            |
| 11/27 | 37, 38, 39 | みんなで体験してみよう                            |
| 11/27 | 40         | 自分選にできることをしよう                          |
| 11/27 | 41, 42     | 自分選にできることをしよう                          |
| 11/27 | 43, 44     | 自分選の実せんを発表しよう                          |
| 11/27 | 45         | 学習全体についてふりかえり                          |

基本となる様式はありますが、学年の発達段階に合わせて、各学年でアレンジして活用しています。

合い言葉  
自分のめあて  
グループのめあて

を知ろう、の歴史を知ろう

仲良く活動する。②  
交通に気を付ける。目的をもって見学する。

| 日           | 活動のめやす                       | 活動したこと              | 7分制     | 活動して感じたこと                   | 今日の自分を振り返ろう            |
|-------------|------------------------------|---------------------|---------|-----------------------------|------------------------|
| 第1ステージ 4/10 | これからの学習について知ろう               | オリエンテーション           | 1 2 3 4 | 歴史についてまとめ方がよくさんあった。         | 行きたいところを調べた。           |
| 第1ステージ 5/10 | の史跡や自然を知り、見学したい場所を考えよう       | コンピューターを調べた。        | 1 2 3 4 | 調べてみたら7分制が、実際に調べた。          | 行きたいところを決めた。           |
| 第1ステージ 5/17 | 活動グループを作り、合い言葉やめあてを決めよう      | グループを決めて、行動計画を書いた。  | 1 2 3 4 | どうやって行くかを決めたりして、行きかき決めた。    | 行きたいところを決めた。           |
| 第2ステージ 5/24 | 当日の行動計画を立てよう①(めあて、コース、持ち物 他) | めあてやコースなどを決めた。      | 1 2 3 4 | 活動計画を少しだけ決めた。               | 発表のじゅんびを決めた。           |
| 第2ステージ 5/31 | 当日の行動計画を立てよう②(コース、課題、めあて方、他) | コースの時間をちゃんと決めた。     | 1 2 3 4 | 全部かきおいて決めた。                 | ちゃんと決められてよかった。         |
| 第2ステージ 6/7  | 当日の行動計画を立てよう③(コース、課題、連絡、他)   | 電車の料金などを調べた。        | 1 2 3 4 | こんなに大変なことをやるんだ。             | 行くのも、持ち物も決めた。          |
| 第3ステージ 6/13 | 「いざ 出発!」                     | 美術館とフラワーパークと学校へ行った。 | 1 2 3 4 | フラワーパークから帰る時の電車に乗りおくれなりました。 | 行く時間も決まっていたので、楽しかったです。 |
| 第4ステージ 6/21 | 活動計画に基づいてきとめていこう 1           | まじめた。               | 1 2 3 4 | 先生たちとかがいて楽しかった。             | 写真などは、はじめて撮りました。       |
| 第4ステージ 6/28 | 活動計画に基づいてきとめていこう 2           |                     | 1 2 3 4 | さすが!!                       |                        |
| 第4ステージ 6/28 | 発表の練習をしよう                    |                     | 1 2 3 4 |                             |                        |
| 第4ステージ 7/5  | 発表会を開こう                      |                     | 1 2 3 4 |                             |                        |
| 最終日 7/12    | 活動全体を振り返ろう                   | ふりかえり               | 1 2 3 4 | 7分制をまとめるのが大変だった。            | 整頓がきちんとできてよかった。        |

評価票に学びの跡を記録していくことで、児童は学習の成果を実感できます。

また、教師の励ましのコメントによって、次の活動への意欲が高まり、自信にもつながっています。

大変なことでもあったけど、楽しかった。

大変なことがあっても、やることわりと、喜びは大きいね。

【事例3】 追究に必要なスキルが身に付くよう指導する

「学び方カード」を作成し、調べ方や学び方を支援する取組

この事例では、手紙の書き方、電話のかけ方、FAX用紙の書き方、インタビューの仕方などの「学び方カード」を作成し、追究に必要なスキルが身に付くよう、国語科や社会科などで学習してきたことも意識させながら指導しています。

例えば、次に示したインタビューの仕方に関する「学び方カード」では、インタビューの相手や聞きたい内容などを指示どおりに書き込んでいけば、インタビューの組立ができるようになっています。授業では、インタビューの内容を書く場面は児童に任せ、教師は、支援を必要としている児童に対してインタビューのシミュレーションを行うなど、具体的に指導しています。そのため、児童は自信をもってインタビューをすることができるようになりました。

教師による指導と、児童が実際にインタビューをするという活動を繰り返し行ってきた結果、高学年になると、コミュニケーション能力が高まり、気持ちのよい挨拶や、相手や場をわきまえた受け答えができるようになってきています。

スキルが身に付き、このようなワークシートが必要のない児童には、自分でメモを作成させています。

また、一方的に用意した質問をするのではなく、相手とのやりとりで話題が広がったり深まったりしていくようにインタビューすることが大切であることも指導しています。



## インタビュー計画

の ( ) 名前

1. 聞きたい内容に合わせてインタビューの相手を決める。  
インタビューの相手 [ ]
2. 質問すること、聞きたいことをまとめる。

① 聞きたいことを順番にメモしておく。

② 大切なことやどうしても聞きたいことは、先に質問する。

③ かじょう書きにしておく。

しつもんすること

1 \_\_\_\_\_

2 \_\_\_\_\_

3 \_\_\_\_\_
3. インタビューの約束をする。  
(電話やファックスで、相手の都合が良い日時と場所を聞く。)

もしもし( )さんですか。  
こんにちは。  
( ぼく・わたし )は、 小学校の  
( )年( )組の( )です。  
今、総合的な学習で( )  
について学習しています。  
インタビューをさせていただきたいのですが、  
( )月( )日の( )時ごろ、  
( )へ、  
おうかがいしてもいいでしょうか。  
では、よろしくお願いたします。

4. 友達とインタビューの練習をする。  
(友達にインタビューの相手役になってもらい、本番のときあわてないように練習しておく。)

インタビューに必要なもの

  - ・メモ用紙とえんぴつ
  - ・インタビューシート
  - ・たんけんバッグ
  - ・テープレコーダー
  - ・カメラ

また、児童は、インターネットでの調べ学習を好みますが、多くのサイトの中から自分が求める情報を探すのには時間がかかります。限られた時間の中で効率よく学習するには、教師が手順とある程度の範囲を示して、その中から検索させることも必要でしょう。教師があらかじめ児童の課題を把握し、参考になるサイトを一覧にしておくことによって、児童は必要な情報を短時間で見つけることができます。

**【事例4】 児童が情報を共有できる場を整備する  
作業や学び合いの場として学習室を活用している取組**

この事例では、教職員全員で学習室を整備しました。この部屋には、追究活動を行う際に役立つワークシートなどが所定の棚に分類して置いてあり、児童は、必要に応じて、これらを自由に使うことができます。学習に必要な紙類や文房具も常備されているため、教室から紙やマジックを持って来る必要がありません。一度時間をかけてワークシートや部屋を整備することにより、児童の主体的な学習や児童間での学び合いがしやすくなり、結果的に、教師に頼る児童が減って、支援を必要とする児童への指導を充実させることができます。

また、学習室には、総合的な学習の時間に関する掲示コーナーがあり、児童は前年度の同学年の発表資料などを見て参考にしています。グループで活動する場面では、お互いの活動の様子が分かるように付箋に書かせ、進捗状況を一覧表にして掲示しています。このように情報交換の場を工夫することにより、意欲付けを図り、追究の広がりや深まりを助けています。

The image consists of two parts. On the left is a 'タイムスリップ' (Time Slip) group activity progress chart. On the right is a photograph of a storage cabinet with drawers labeled with various activity-related terms.

| 時  | 月日 | グループ<br>テーマ         | 1組<br>遊び1 | 2組<br>遊び2 | 3組<br>遊び3 | 4組<br>道具1 | 5組<br>道具2 | 6組<br>道具3 | 7組<br>道具4 | 8組<br>道具5 | 9組<br>道具6 |
|----|----|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 8  | 9  | 活動計画を立て、調べるじゅんぴをしよう |           |           |           |           |           |           |           |           |           |
| 10 | 11 | じっさいに調べよう           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |
| 12 | 13 |                     |           |           |           |           |           |           |           |           |           |
| 14 | 15 |                     |           |           |           |           |           |           |           |           |           |
| 16 | 17 | 中間発表                |           |           |           |           |           |           |           |           |           |

NEOX

調べるために!! 説明と 子供の住所・電話番号

電話のかけ方(資料を送ってほしいとき)

電話のかけ方(買いたいとき)

手紙の書き方(質問・お礼の手紙)

手紙の書き方(お礼の手紙)

手紙の書き方(お礼の手紙)

児童は、自分たちの学習の歩みを振り返ったり、友達の学びの様子を参考にしたりしています。活動が停滞したときなどには、この一覧表が役に立ちます。

## 視点4：児童に評価をフィードバックする

### 基本的な考え方

#### 1 誰のための評価か、何のための評価かを再認識する

総合的な学習の時間に限らず、授業における評価は、児童のために行われるものです。評価をすることで、児童がますますやる気になったり、安心したり、修正すべき点に気付いたりできるようにすることが大切です。認められ、ほめられることによって、児童は自信をもち、よりよいものを求める意欲が出てくるのではないのでしょうか。

評価の補助簿に児童の学習の様子を記録したり、通知票や指導要録に所見を記述したりする際も、学習の状況や成果などについて、それぞれの児童のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価することが大切です。

#### 2 誰が、何を、いつ、何で、評価するかを意識する

一口に評価といっても、誰が、何を、いつ、など、いろいろな条件が伴います。次の表は、総合的な学習の時間において、一人の児童が多面的に評価されていることを表したものです。学習に協力してもらった地域の人や外部講師からの評価も児童にとっては大きな励みになります。他者からの励ましや指摘などによって、児童は、自己をより客観的に理解するようになるものと考えられます。これらの評価を場面に応じて組み合わせるなどして、児童の学習状況を総合的にとらえるようにしましょう。

| 誰が<br>評価者       | 誰を<br>対象 | 何を<br>評価の視点(例) | いつ<br>評価場面        | 何で<br>評価媒体、評価方法など   |
|-----------------|----------|----------------|-------------------|---|
| 教師              | 児童A      | 育てたい力が育っているか   | 活動中<br>及び<br>活動後  | 媒体：<br>行動、発言、ワークシート、作品、ポート<br>フォリオ、発表、動作、寸劇など<br>方法：<br>観察、言葉かけ、作品やワークシートへ<br>のコメントなど |
|                 |          | 学習活動の方向性はよいか   |                   |   |
|                 |          | 取組む態度はよいか      |                   |   |
|                 |          | その他            |                   |   |
| 児童B             | 児童A      | (略)            |                   |   |
| 児童A<br>の<br>保護者 | 児童A      | 取組状況、学習内容など    | 活動後<br>自宅で        | 媒体：<br>作品、ポートフォリオ、発表など  |
| 地域の人            | 児童A      | 取組状況、学習内容など    | 発表会<br>や校外<br>活動で | 方法：<br>言葉かけ、作品へのコメントなど  |
| 児童A             | 児童A      | めあてに迫れたか       | 活動中<br>及び<br>活動後  | 媒体：<br>行動、発言、ワークシート、作品、ポート<br>フォリオ、発表、教師や友達などからの<br>評価<br>方法：<br>振り返り、自己評価票の記述        |
|                 |          | 進み具合はどうか       |                   |   |
|                 |          | 進んで取組めたか       |                   |   |
|                 |          | その他            |                   |   |

### 3 評価を意図的・計画的にフィードバックする

総合的な学習の時間においては、調べ学習、体験活動、発表などの事前準備や指導・支援などに時間と労力を注入せざるを得ないため、児童を活動させることに目が向きがちです。しかし、最終的には、児童が自分の力で課題を追究し、学習を成立させていくことがねらいです。

そのためには、学習の終末に評価するだけでなく、学習の過程において、意図的・計画的に評価を児童にフィードバックすることが必要です。具体的には、次のような工夫をするとよいでしょう。

#### 評価をフィードバックする工夫

「がんばった」、「よくできた」などの漠然とした感想ではなく、具体的な学習成果を自己評価するようなワークシートや評価カードを工夫し、教師からのコメントを添えるようにする。

集めた資料を単にファイルするのではなく、有用なものを選んでポートフォリオとしてまとめていくことを指導する。 (⇒【事例1】)

総合的な学習の時間についての情報を積極的に発信し、保護者や、地域の人からの評価が得られるようにする。 (⇒【事例2】)

振り返りの機会（中間発表や成果発表など）を意図的に指導計画の中に位置付けるとともに、他者からの評価を実感できるよう工夫する。 (⇒【事例3】)

ここで気を付けたいのは、計画どおりに学習が進まず、予期せぬ方向に学習が展開してしまっても、児童が前向きに取り組んでいるのであれば、認め、励ます姿勢をもつことです。もちろん、教師は事前に、育てようとする資質・能力や学習させたい内容を明確にし、期待する児童の姿を想定して授業に臨むわけですが、総合的な学習の時間は、それまでに児童が身に付けてきた力を確認するためだけに学習活動を行うものではありません。児童が、失敗や困難を乗り越えていく力を育てるために行う学習でもあります。

多少のつまずきや停滞などは予想しておき、すぐに指示を出してしまうのではなく、待つことのできる教師でありたいものです。児童一人一人の学習状況を的確にとらえたうえで、次の手が考えられるようなヒントを児童に与えるなど、児童を励まし元気付ける情報として評価を生かすことが大切です。児童が、できるだけ自分の力で課題を解決したり、学習の質を高めたりしていくことができるよう、学習活動を指導・支援する教師のかかわり方が重要です。

【事例1】 児童が学習の成果を実感できるよう評価をフィードバックする  
- 価値ある情報を選び、友達や教師の評価を得ながらポートフォリオを作る取組 -

この事例では、価値あるポートフォリオを児童に作らせること、教師が児童への支援を随時行うことで、児童と教師双方が、実施（記録）評価、修正のサイクルを実行できるといった、自動的に評価がフィードバックされるような工夫がされています。

下に示すのは、教師向けのポートフォリオ評価の手引きです。この手引きでは、ポートフォリオを「自分の価値あるものを集積したファイル」、あるいは「児童と教師両者が一緒になって、その子のよさを認め・伸ばしていくためにお互いが評価しあったもの」と定義し、作成について共通理解して指導に当たるための留意点をまとめています。右の囲み内に、参考になる留意点のいくつかを要約して示します。

<参考になる点>

- ・何でもファイルしておくような、単なる記録ではなく、あとで教師が評価や評定に活用する目的で作るものでもない。
- ・自分が価値あると認めるものを選び、教師が見いだした価値（よさ）などを伝えることによって、児童が学習の成果を実感できるようにする。
- ・教師や友達との対話によって、さらに自分について理解していく（メタ認知）。
- ・自分のファイルを見直して活動の方向性を確認したり、見せる（表現する）ことを意識して再編成したりする場を意図的に設定する。
- ・育てようとする資質・能力をはたらかせる場、育てる場として、意図的に学習に組み入れる。

**ポートフォリオ (portfolio) 評価ってなんなの**

**1 初めに確認したいこと**

ポートフォリオはただ何でもファイルしたものではない、  
ファイルされたものを後で教師が評価に活用するためのものではない。

**2 本校のポートフォリオ評価の定義**  
「自分の価値あるものを集積したファイル」

**3 本校の考え方**

(1) 「価値ある」とは

① 自分が価値あると認める

児童の、作品を作っている中で工夫したこと、活動での「がんばった」という気持ち、問題に対して深く考えたことなどは、表面には表れにくいものです。ですから、教師が見取る（評価する）ということができにくく、当然その児童に合った支援というものをできにくいものです。

自分（児童）が価値を認めたことというのは、児童と1対1で接すること（対話など）でやっと理解することができるとです。

ですから、児童が自分の判断でファイルしたときには必ずその理由を聞き取ってあげてください。そしてそれを記録して作品などと一緒にファイルしておくことを意識付けしてください。

また、児童自身もその思いを話すことでさらに自分について理解していく（メタ認知といえます）ものと考えます。

② 教師が価値を見出し、認めてあげる

児童の価値観というのはまだ未熟です。小学校は自分の狭い価値観から、多様な価値観に気づいていく大切な時期です。

そこで、児童が自分では価値を見出していない作品のよさや、児童の成長他に対しての影響などを積極的に伝えたり賞賛したりしてあげてください。

そうすることでいろいろな価値観があることに気づき、認め、自分自身でもそれを伸ばしていこうとする態度が育っていくものと考えます。

また、高学年になれば、事前に評価基準を伝えることで、自分の活動や問題解決の結果、作品などがそれに合っているか自己評価できるようになり、質の高いポートフォリオになっていくことでしょう。

③ 教師が活動を見出し、認めてあげる

児童の価値観というものはまだ未熟です。小学校は自分の狭い価値観から、多様な価値観に気づいていく大切な時期です。

そこで、児童が自分では価値を見出していない作品のよさや、児童の成長他に対しての影響などを積極的に伝えたり賞賛したりしてあげてください。

そうすることでいろいろな価値観があることに気づき、認め、自分自身でもそれを伸ばしていこうとする態度が育っていくものと考えます。

また、高学年になれば、事前に評価基準を伝えることで、自分の活動や問題解決の結果、作品などがそれに合っているか自己評価できるようになり、質の高いポートフォリオになっていくことでしょう。

つまり、ポートフォリオ評価とは

児童と教師両者が一緒になって、その子のよさを認め・伸ばしていくためにお互いが評価しあったもの

と書えます。

② 「もの」とは

児童、教師が評価し合える物はすべて対象と考えるられます。

- ・テスト(アンケート)用紙
- ・自己評価表
- ・写真
- ・プレゼン資料
- ・作業用紙
- ・作文
- ・録音物
- ・録画物
- ・作品
- ・ウェブページ

④ 「ファイル」とは

ポートフォリオの場合、ただ保管するためのものではありません。いつでもそれを取り出し、友だちや先生にアピールしたり、自分の活動の方向性を確認したりできるためのファイルです。

ですから、「いつ」「どんなところがよくて」ファイルされたものなのかが一目で分かるようにしておくような工夫も必要です。

③ 「集積」とは

ポートフォリオは自分の自慢大会です。でも、自分では自慢だと思っていたことがあまりうけなかったり、自分では気付かなかった自慢を教師や友だちに見つけてもらったりしたことで、絶えず中身を検討し、成長していくファイルでなくてはなりません。

そのためには、自分のファイルを見直す場を意図的に設定してあげる必要があります。

例えば、ある課題に対して討論会を行い、いろいろな考え方に触れ、自分のファイルの中身を入れ換えたり、単元の最初や最後に自分のファイルを見直す時間を取ったりする必要があります。

また、教師の方で意図的に目的を決めて、児童全員が同じファイルを作り比べあったり、討論しあったりするという活動に広げたり、ポートフォリオを作成する時間を単元の中に位置づけたりすることも考えられます。

ただし、教師は常に児童一人一人のよさを見取りまた児童の活動を理解しようとする心がある（つまり常にポートフォリオを増やしていこうという）必要があります。

ファイルに入れるものは、作業用紙、自己評価票、写真、作品、発表用資料など、学習の過程で児童が作成したり記録したりしたものはすべて対象になりますが、「なぜファイルされているのかが児童に明確になっていることが大切である」という考えに立ち、児童と教師が互いに評価し合ったものを選んでファイリングさせています。学習を進める過程でポートフォリオという作品を作っていくわけですから、ファイリングするものを選ぶこと自体が、学習の成果や自分の成長を自覚することになります。そのうえ、ファイルに入れたものを見直したり再編成したりする際も、無目的に収集したものを後で整理するような手間と時間がかかりません。

児童が自分の判断でファイリングしたときには、その理由を教師が聞き取って、作品と一緒に記録をファイルに残しておくよう助言し、児童が価値を見いだしていないことについても、作品のよさや、児童の成長、他に対しての影響などを積極的に伝えたり賞賛したりしています。このように、教師と対話しながらポートフォリオを作ることによって、児童は、自分が工夫したこと、がんばったこと、深く考えたことなどについて、その価値に気付き、自覚できるようになってきています。

また、右に示した「ポートフォリオ評価の実際」という用紙には、児童がファイリングしたもののコピーや写真などと一緒に、その子なりの学びの価値(こだわりや気付き)や教師が見取ったこと、本人に伝えたことなどを記録しています。

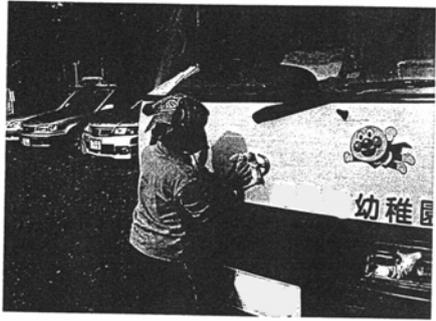
学習状況を評価することの難しさの一つに、評価が教師間で大きく食い違ってしまわないかということがあります。評価の規準を言葉細かく設定したとしても、同じような見取りができるとは限りません。この事例のように、児童の学習状況について教師がどのような価値を見いだしたのか、それをどのように児童に伝えたのかを記録しておくこと、さらに、それらを持ち寄って内容を検討することは、児童の学びの姿や成長を見取る教師の「眼」を養うことになります。

ポートフォリオ評価の実際 (5)年

11月17日( )

単元名: わたしにできること

活動: 幼稚園の第一回交流活動

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 児童の様子                               |   |
| 教師の見取り<br>↓<br>児童の見取り<br>( )<br>( ) | <p>本児は、幼稚園の時からこの「幼稚園バス」が大好きだったという。当時のバスではふいふいのお世話になったこのバスに感謝の意味があるのか一人でもそのも大切にしていた。次回は、すみずみまで、ていねいにやると言っていた。</p> <p>*一人でよくかまはっているね、園長先生も喜んでくださると、本児のバスバスを認めた。</p> |

児童が自分からファイリングしたときには、その理由も書いてください。  
 またそこから教師は何を見取ったのか書いてください。  
 様子は記録のコピーでも良いし、デジカメで姿や作品等を撮ったでもかまいません。  
 教師から見取ったときには、児童になんと伝えたかも書いてください。

**【事例2】 保護者や地域の人からの評価が得られるようにする**  
**- 学習のねらいや内容などについての情報を発信する取組 -**

この事例では、総合的な学習の時間のテーマや主な内容、育てようとする資質・能力などを、できるだけ分かりやすい言葉でまとめ、保護者や地域の人に通知しています。

総合的な学習の時間では、中間発表や成果発表などのときに、保護者や地域の人を学校に招くことがあります。これは、児童の具体的な姿についての評価ばかりか、学校独自の教育課程についての評価をもらえる貴重な機会です。

このとき、保護者や地域の人に見てほしい視点を示すことで、児童の学習への賞賛や助言の内容が豊かになると考えられます。学校からの積極的で意図的な情報発信によって、総合的な学習の時間についての理解が進み、的確な評価を得ることが期待できます。

右のような学校からの配布物に加えて、児童が作成した招待状や参観者に記入してもらうカードを添えるという方法もあります。

保護者や地域の人に発表会に来てもらったり、家庭で話題になったりすることで、児童は、「大人も関心をもっているよ」というメッセージを感じます。それは、児童にとって価値ある評価であり、意欲の向上にもつながるものと考えます。



小 学習指導部通信 第 9 号  
平成 年 月 日

総合的な学習の時間【いきいき総合発表会】について

先日、学校便りでお知らせしました通り、月 日に【いきいき総合発表会】を行います。ぜひお出いただき、本校の総合的な学習の時間の取組について御覧ください。今のスタイルになって3年目、児童も慣れ、発表の仕方を工夫したり、「自分なりのこだわり」を表現しようとしていたりする児童も多くなってきました。今年度、それぞれの学年では、下記のようなことを学んできました。今後さらに、総合的な学習の時間を通して、今日的な課題にふれ、自分の生活とのかかわりを見いだし、問題解決が図れるよう、内容を充実させていきたいと考えています。

| 学校テーマ | 学年テーマ                 | 学年のテーマ と 主な学習内容   |
|-------|-----------------------|---|
| 共に生きる | 3年<br>わたしたちのまち        | 『市の環境自慢大会をしよう』<br>市の自慢できることを詳しく調べて、工夫してまとめ、聞か人にわかりやすいように発表する。活動をとおして、郷土の自然環境を知り、郷土に愛着の気持ちをもてるようにする。 |
|       | 4年<br>わたしたちと<br>かんきょう | 『すみよいまちパート ~ぼくらは環境調査隊~』<br>「きれいなまち」を追究する過程で取り上げた市内を流れる川や学校付近の水系の水質に関する調査を行い、自分たちができる取組について考える。      |

本校が、総合的な学習の時間をとおして児童に培いたいと考えている能力や態度を具体的にすると下のようになります。児童の学びの姿をご覧になる参考にしてください。

~ 4年生の例 ~

| 自己学習能力の育成  | コミュニケーション能力の育成   | 自分とのかかわり・実践力                            |
|--|--|---|
| ・指標生物やCODなどの観点を使って、水質を調べたり、調べたことから原因などを追究することができる。 | ・調べたことを分かりやすく伝えるために工夫して発表することができる。<br>・様々な調べ方を身に付け、進んで問題を追究することができる。 | ・「きれいなまち」づくりのために自分たちができる取組を考え、実践しようとする。 |

「総合的な学習の時間」発表会についてのアンケート（例）

本日は、お忙しいところ、お出でいただきありがとうございます。子どもたちにとって、自分たちが調べたり取り組んだりしてきたことを発表し、保護者や地域の方々にも見ていただくことは貴重な体験です。以下の視点(発表会で見ていただきたいこと)を参考にして、総合的な学習の時間における子どもたちの学習の様子をご覧ください。

\*ご覧になった学年:( 年)

| 発表会で見ていただきたいこと |                         |  |
|----------------|-------------------------|--|
| 1              | 発表の内容はよかったですか。          |  |
| 2              | 分かりやすく伝えるための工夫がみられましたか。 |  |
| 3              | 一生懸命に取り組んでいましたか。        |  |

発表をご覧になり、どのような感想をもたれましたか。  
感想や意見、児童への励ましの言葉やアドバイスなどお書きください。

【事例3】 伝えたい相手からの評価を得て学習を活性化する

- 参加・体験型の発表で、地域の人からの評価と支援を得る取組 -

保護者や地域の人を招いて学習の成果を発表することはよく行われており、児童は、発表の準備を進める過程で多くのことを学びます。

この事例では、パピリオン方式(屋台村方式)で発表を行っています。ここで工夫しているのは、クイズ、実演、体験コーナーなどの参加・体験型の発表を意図的に行わせ、地域の人と言葉を交わす場を設けていることです。舞台での発表よりも近い距離で少人数を相手にした参加・体験型の発表には、右のようなメリットがあります。先生ではない大人からの評価は児童に自信を与えますし、学習に直結する助言と地域情報を得るチャンスでもあります。

参加・体験型の発表のメリット

伝えたい相手を具体的に思い浮かべながら、「伝える」ことを意識して準備ができる。伝えたい相手の顔を見ながらの発表であるため、相手の反応が分かる。言葉で伝えにくいことを動作などで演示する際に、よく見える。相手に体験してもらい、感想が聞ける。その場で言葉を交わすチャンスがあり、助言や地域の情報が得られる。

ポイント：学校参観日に少人数対象の発表をする。参観者にも体験コーナーやクイズに参加してもらい、その場で反応や感想（評価）をもらう。

アイマスクを付けてのクイズ

これは何かな？  
アイマスクをしているとなかなか難しいな。



手で触って何の品物かを当ててください。時間は30秒間です。

乳搾り疑似体験コーナー

よくできてるわねえ。  
本当にやってみたいよ。



牛の模型を作り、参観者に体験してもらっている。

## 視点5：教職員の協力体制を生かす

### 基本的な考え方

#### 1 担任だけでなく、教職員全体で指導・支援に当たる

総合的な学習の時間における学習活動の指導・支援に当たっては、教職員全体での取組が重要です。児童が複数の場所に分かれて活動したり、学級や学年の枠をはずして活動させたりする場合には、複数の教員が協力して指導に当たるだけでなく、学習環境の整備や校外学習の連絡調整についても協力し合うことで、学習活動を効果的に支援することができます。また、養護教諭や学校栄養職員などによるそれぞれの専門性を生かした支援によって、より質の高い学習を行うことが期待できます。教職員が協力して学習活動を支援することは、右のような利点があります。

- ・一人では気付かなかった児童のよさが見えてくる。
- ・指導計画や指導方法、評価面での工夫や改善策が見えてくる。
- ・各教職員の特性（専門、得意分野、経験、関心等）が発揮できる。

#### 2 情報を共有し、教職員が学び合う

協力して総合的な学習の時間に取り組むことは、教職員が互いに学び合うチャンスでもあります。教材研究を一緒に行ったり、授業について話し合ったりすることを通して、多様な視点での教材開発や児童理解が可能になり、指導力を高め合うことができます。負担感や多忙感を増すことなく、こうした取組を効果的に行うためには、教務主任や学習指導主任などが全体的視野に立って指導体制や条件整備等の企画や調整を進めるとともに、学級担任や学年主任からも積極的に学習や指導の様子について他の教職員に伝えることが重要です。

教職員が頻繁にコミュニケーションをとり、分からないことを相談し合うなかで、必要な情報やヒントを得たり、取組の成果や課題を確認したりできます。そうすることで、実践が共有され、指導が充実していきます。 (⇒【事例1】)

情報を共有し教職員の協力体制を生かす工夫として、次のような方法が考えられます。

教材や指導方法、学習環境などについて共同で研究する。 (⇒【事例2】)

他の学級や学年と合同で行う活動や交流の機会を設け、一緒に授業プランを考える

各教職員の専門や得意分野等を生かして児童を支援するとともに、児童の学習状況についての情報を共有する方法を工夫する。 (⇒【事例3】)

各学年の学習活動や指導に関する情報を共有する場の設定や方法を工夫する。

- ・学年会、朝の打ち合わせ、授業参観、校内研修（教材研究、授業研究）
- ・各学年の単元計画の掲示と文書の回覧、口頭での連絡・協力依頼
- ・授業や指導に関する資料の保管、データベース化 など



**【事例 1】 総合的な学習の時間は教師が学び合える機会であるにとらえる**  
**- 教職員が協力して取り組む意識を高める資料の作成 -**

総合的な学習の時間は、これまで行ってきた教科の学習指導とは勝手が違い、教師は、授業の組み立て方や指導について不安を感じたり、思うようにならず悩んだりすることがあります。そこで、この事例では、下のような資料を作成して全教職員に示し、自校の方針について教職員の共通理解を図っています。学年会の折などに、この資料を使って話し合ったところ、建設的に取り組んでいこうとする意欲がわいたという声が聞かれたそうです。総合的な学習の時間においては、扱う内容や児童の関心によって対応を考えていく場合が多いので、一人で悩まず助け合って取り組むことが大切です。

**児童を育てるための教師必須アイテム**

小学校

**<目指す教師の姿・・・子どもと一緒に学ぶことの楽しさを知っている教師>**

**目と目で通じ合う学級経営・・・学級経営が基盤**

子どもたちの心の動きに敏感な感性をもつ。

子どもたちが、今、何に関心があるのか。何を必要としているのかを見極める力を高める。

- ・課題づくり・・・子どもたちの関心や興味のあること、学級の雰囲気、児童の実態に合ったもの  
 (十分に時間をかける・・・児童が納得し、学習しようとする意欲につながる内容にしていく)
- ・追究・・・資料の提供、適切な支援

**遊び心を忘れない**

子どもたちと一緒にやってみる。すると、今まで見えていなかった子どもたちの考えや、学習内容の方向性が見えてくるかもしれません。一緒に感動したり遊んでみたりする心が大切です。上から見下ろさない、押し付けない学習です。

**一人で悩まない**

わからないことばかりの実践です。悩んでいることは、お互い、同じようなことかもしれません。どんどん話し合っ、討論しましょう。見えないものが見えてくるよう、お互いに心を開きましょう。早め早めに「SOS」を出しましょう。

**素直に楽しいと喜べる心をもつ**

子どもたちの学ぶ姿や小さな発見にも感動できる豊かな感性を磨き、「総合的な学習の時間って楽しいね。」「よかったね。」「がんばっているね。」と教師が心から思い、子どもたちを褒める心もちたいものです。学ぶことに対して子どもたちが本当に楽しいと感じるような支援ができるようにしたい。活動内容の方向性を決めて計画を立てるときや授業の準備は大変ですが、児童が生き生きと学んでいく姿を目指してがんばりましょう。

**保護者や地域の方々との連携**

一人でやろうとせず、保護者や地域の方々にも学習にどんどん参加・参画していただくネットワークを作りましょう。学年通信で伝えたり子どもたちを通して情報を流したりすることも大切です。

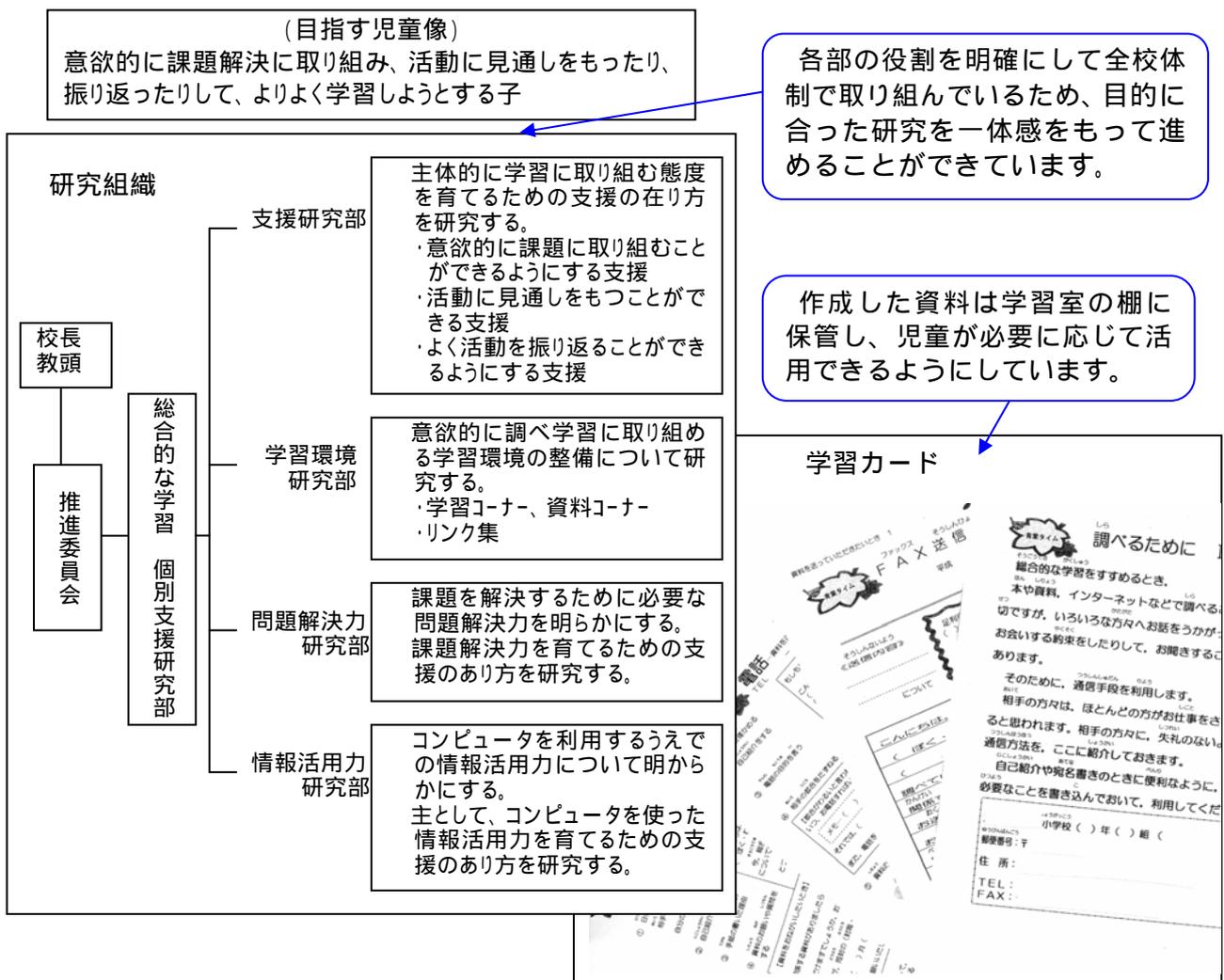
**ウェビング・・・興味・関心の広がりを予想して書く**

何かのテーマに沿って、どれだけ子どもたちの興味や関心の広がりを予想できるか書いてみる練習をしましょう。

**【事例 2】 教材や指導方法、学習環境などについて共同で研究する**  
 - 必要な機能を明確にして組織的な協力体制を構築した取組 -

下の図は、総合的な学習の時間の研究組織を示したものです。この事例では、児童の実態などから目指す児童像を設定し、育てようとする資質・能力の分析や支援のあり方の検討、資料作成や学習環境の整備などについて、四つの部を設けて研究を進めています。各部で研究したことや作成した資料は校内で共有され、各学年における指導に役立てられています。

職員室では総合的な学習の時間に関する会話が日常的に交わされ、学習の進め方や指導について話し合うなど、教職員間のコミュニケーションがよくとられています。担任以外の教職員も協力して、ファックス送信や図書室での資料探し、校外学習の引率など、児童の活動を幅広く支援しています。こうした協力的な取組が無理なく行われている理由として、教職員の良好な人間関係が基盤にあることはいうまでもありませんが、このように全校体制で総合的な学習の時間の研究に取り組んできたことも大きく関係しているものと思われます。



【事例 3】 児童の課題に応じた支援を充実させ、学習状況に関する情報を共有する  
- 指導の方針を共通理解し児童の学習状況を把握するワークシートの工夫 -

この事例では、各学年の最後の単元に、学年の枠をはずして個人テーマで追究する学習活動を位置付けています。この単元のねらいは、総合的な学習の時間や各教科等で学んだことを生かしながら自分で課題を決め、各自が問題解決に取り組むことを通して自分のよさを見付けていくことにあります。学級担任はもとより、教頭、教務主任、養護教諭、習熟度別学習担当教諭も、それぞれの専門や得意分野を生かして指導に当たるといった協力体制をとり、一人一人への支援ができるようにしています。

児童と担当教師が活動に合わせた場所に集まって学習活動を進めていくため、事前に「学習の手引き」と共通のワークシートを作成し、単元の目標や指導の方針について教員間の理解を深める工夫をしています。ワークシートには児童による活動の記録と担当教師からのコメントが記入されるので、学級担任が児童の学習状況を知る資料としても役立っています。

**I. 目標 (育てようとする資質・能力)**

A. バランス

1. 時間, 材料, 場などを考え, 自分の活動を修正していく力
2. 自分のやりたいことと自分のできることの調整を図る力

B. 情報

1. 自分の調べたこと, 練習したことなどを分かりやすく伝える力
2. 教科書などから自分に合った課題を見つける力
3. データを自分なりの情報に変えてまとめる力
  - a. 内容, 方法

C. 評価力

1. 自分だからこそのこと という自分を見つける力
2. 解決し満足するのではなく, さらに分かりやすく伝えようとする態度
3. 課題決定や追給時において教師などのアドバイスを生かす力

**II. 主な活動**

A. 自分の課題を見つける [ 5 ]

|                  |          |    |
|------------------|----------|----|
| 1. オリエンテーション     | 12月15日 水 | 3  |
| a. 活動のながれ, 目的を知る |          |    |
| 2. 自分の課題案を作る     | 12月15日 水 | 4  |
| a. 教科の発展         |          |    |
| b. 総合の補充・まとめ     |          |    |
| 3. 課題について相談する    | 12月22日 水 | 34 |
| 4. 自分の課題を修正, 決定  |          |    |

B. 課題を追究する [ 7 ]

|                |         |    |
|----------------|---------|----|
| 1. 課題追究の計画を立てる | 1月19日 水 | 3  |
| 2. 情報収集する      |         |    |
| a. 方法, 材料      |         |    |
| 3. 問題解決        | 1月26日 水 | 34 |
| a. 練習          |         |    |
| b. 実験観察        |         |    |
| c. 補充活動        |         |    |
|                | 1月28日 金 | 3  |
|                | 1月31日 月 | 5  |
|                | 2月2日 水  | 34 |

C. 中間発表 [ 2 ]

|            |        |    |
|------------|--------|----|
| 1. 相互評価    | 2月4日 金 | 23 |
| 2. 自己評価・修正 |        |    |

D. 追究のまとめ [ 4 ]

|         |         |    |
|---------|---------|----|
| 1. 補充活動 | 2月9日 水  | 34 |
|         | 2月10日 木 | 3  |
| 2. 発表準備 | 2月15日 火 | 5  |

E. 発表会 [ 2 ]

|                    |         |    |
|--------------------|---------|----|
| 1. 2月20日授業参観時(5校時) | 2月16日 水 | 45 |
|--------------------|---------|----|

F. 活動のまとめ [ 2 ]

|               |         |    |
|---------------|---------|----|
| 1. ポートフォリオの作成 | 2月18日 金 | 34 |
|---------------|---------|----|

**活動の特徴**

- ・児童の思いやよさなどを生かした, 主に教科の発展的な内容の課題
- ・学年の枠を外し, 活動に合わせた場所で相互に情報交換をしながら
- ・課題解決の結果を主に保護者に発表することを目的にする
- ・全校体制で一人一人のよさを生かせるよう支援する

この活動における目標 (育てようとする資質・能力) と、主な活動の予定を示しています。

指導に当たって共通理解が必要なことについては具体的に示し、担当に伝えていきます。

まず、目標を確認してください。

ここは今回は自分で書かせてください。

活動の最後に自己評価の時間を取ってください。

ここまで書かせて、必ず先生のチェックを受けてから活動を開始するようにしてください。

どこまでできたら終わりなのか

どこまで書かせて、必ず先生のチェックを受けてから活動を開始するようにしてください。

今日のゴール

次回について

次の活動は、2月 日 ( ) の 時間目です。

自分で準備するものを用意したり、図書室などで調べたりしておきましょう。



## 第2章

### 実践の成果や課題をカリキュラムの改善につなげる方策

#### [ 活用の仕方 ]

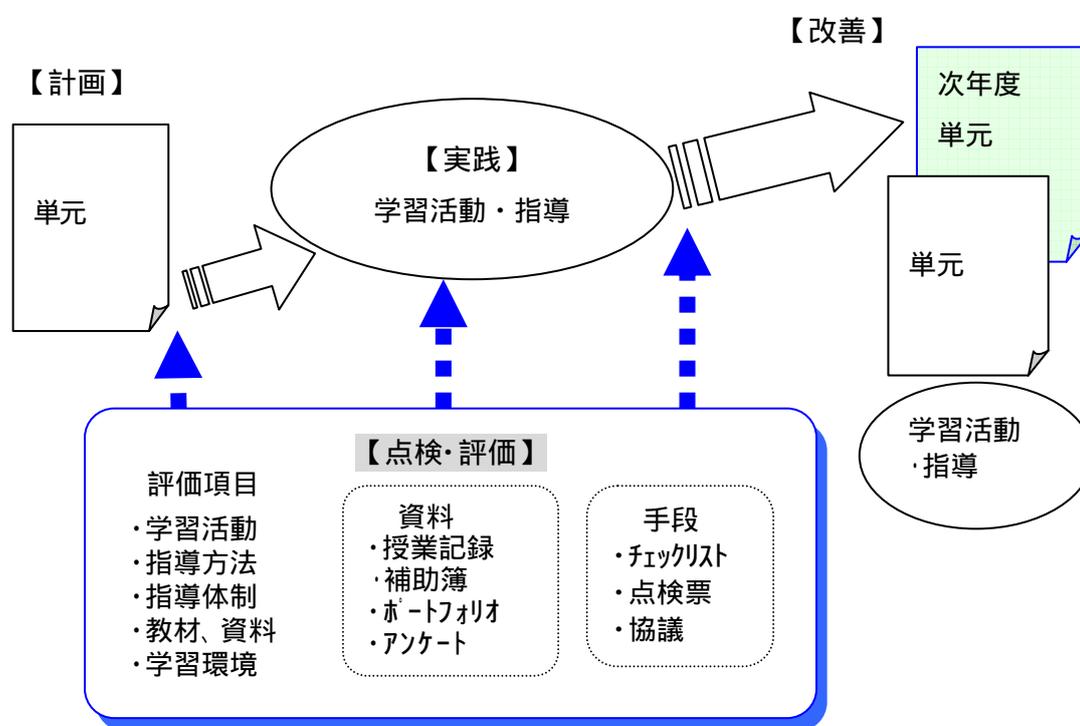
総合的な学習の時間の計画や実践については、どのように改善を図っていますか。はじめに作られた計画が見直されず、毎年同じような活動が繰り返されているなど、前年度の反省が生かされていないということはありませんか。

この章では、実践の成果や課題をカリキュラムの改善につなげる方策について紹介しています。カリキュラムは、「計画 - 実践 - 評価 - 改善」という一連の流れを意識し、更新していくことが大切です。実際の授業や学習活動の評価情報をもとに、学習や指導の状況について点検し、反省や成果を次の単元あるいは次年度に生かすことは、総合的な学習の時間の質を高めることになり、学校の教育活動の充実にもつながります。

「実践の成果や課題を確認したい」、「カリキュラムの改善・更新を図るためのヒントがほしい」というときの参考にしてください。

各学校が自らの責任でカリキュラムを作成する総合的な学習の時間にあっては、教科以上に、実践を通してカリキュラムの開発を進めていくことが重要になります。各学校の総合的な学習の時間の目標に照らして児童の学習状況を評価し、活動や指導についての成果と反省を次の単元あるいは次年度に生かしていくことが大切です。こうした更新のための仕組みをつくり、計画的・継続的に見直していくことで、自校の実態に合ったカリキュラムが創られ、教育課程における位置付けや役割が明確になっていきます。

下の図は、単元の計画や実践を評価し改善につなげる流れを模式的に表したものです。カリキュラムの見直しは、まず、それぞれの単元の学習活動と指導について振り返り、次に、単元の配列や組み合わせが適切であるかを検討するという手順になります。



ここで大切なことは、総合的な学習の時間で何を育てようとしているのか、それを育てるための活動は単元のどこで具体的に行われているのかを確認することです。計画どおりにいったことといかなかったことを整理して、その理由を探り、実践に基づいて計画の修正や指導の改善を図ることが重要です。

次に、総合的な学習の時間を充実させる方策として、単元の評価に関わる内容を中心に、実践の成果や反省をカリキュラムの改善につなげる方法を紹介します。

## 1 実践の記録や資料をその後の学習や指導に役立てる

総合的な学習の時間の単元は、学年単位で行うように計画されていることが多いため、児童の実態に合った教材や展開が工夫され充実した活動が期待できる一方、記録や申し送り事項等が次年度に引継がれにくいという問題があるようです。単元に関する資料や記録を残し、必要に応じて活用できるようにしておくことは、実践の成果や課題を確認するうえでも大切です。ここで紹介する方法を参考に、各学校で無理なく継続して行える方法を工夫してみてください。

### (1) 資料や実践の記録を保管し、参照しやすい状態にしておく

授業のために収集・作成した資料や、実際の活動の様子や指導の工夫が分かる記録等をファイルなどにまとめておくと、実践の振り返りと今後の指導に役立てることができます。児童の活動の様子や変容をメモやカードに随時書き留めておき、授業で用いたワークシート等と一緒にファイルに残したり、授業後、効果的であった支援や問題点などをノートに記録したりするなど、適宜、短時間でできることを実行していくとよいでしょう。これらの記録は、授業についての日常的な話し合いや校内研修の資料として役立つほか、活動のまとめりや単元の終わりに整理することで、単元、あるいは、カリキュラム全体を振り返る際の参考になります。

つまり、総合的な学習の時間についてのポートフォリオを教師自身が作成し、保存することによって、事実に基づいた振り返りがしやすくなり、その後の活動や指導に役立てることができます。

#### 参 考

この事例では、「環境」「福祉」「国際理解」などのテーマごとに、パンフレット等の資料を整理したファイルを作成し、図書室の書棚に置いています。また、学習を進めていく過程で児童が作成した発表資料の一部は、教材室に掲示しています。こうした資料や児童の作品を見ながら随時話し合うことで、学習活動や指導についての情報交換がしやすくなります。



#### ヒント

このように、総合的な学習の時間に関わる情報(単元計画、人材リスト、資料、授業記録など)は校内の一定の場所に保管し、いつでも参照し、利用できるようにしておくことが便利です。

**(2) 計画の修正・変更の理由や実践上の留意点を記録に残す**

学習を進めていくと、児童の実態や願い、環境条件等によって、計画を変更したり修正したりする場面が出てきます。その場合には、どのように変えたのかを年度当初の計画に朱書きするなどして記録に残しておきましょう。単元計画ごとに備考欄を設けて、学習の様子や指導状況、留意点等を記入し、次の学年に引き継ぐという方法もあります。その際、変更した理由や授業者のコメントを書き添えておくようにすると、次年度、計画を検討する際の参考になります。

**参 考**

| 5 年  | 体験 稲っ子クラブ(パート1) お米なんでも探検隊  |  | 4~7月     | 40時間 (実施 42 時間)   |   |   |
|--|--|--|----------|---|---|---|
| ねらい  | 米の生産の様子・農家の人の工夫や努力について、図書やインターネットなどの方法で調べたり、調べたことや体験したことを相手に分かりやすくまとめたり、伝えたりすることができる。(学び方)<br>自分の思いや得意なことを生かして進んで調べたり、体験したことを工夫してまとめたりする。(生き方) |  |          |   |   |   |
| 月  | 学習過程   | 予想される主な活動・内容   | 学習形態     | 主な支援  | ( )関連教科・領域<br>*地域素材                           | 実施したこと・支援修正・変更等 (理由)  |
| 4  | つかむ (10)   | 田植えをする。<br>自分で追究したい課題を決める。<br>・稲の育て方を調べる。<br>・生産地、生産量、銘柄を調べる。<br>・米の歴史を調べる。<br>・世界の米を調べる。<br>調べる方法やまとめ方を考えて計画を立てる。 | 学年<br>個人 | ・農家の人に田植えの仕方を教えてもらいながら実際に田植えをして、米作りへの関心や意欲を高める。<br>・5~10月を通して稲を育てるので、当番を決めるなどして、継続して稲の世話や観察ができるよう、計画を立てさせる。 | *田んぼ<br>人材リスト<br>参照<br>さん<br>(理科)<br>植物の発芽と成長 | ・動機付けに、去年の5年生が収穫した米で飯を炊いて試食。(4/27)<br>・学年委員を中心に保護者の協力を得て田植えを実施。(4年生も参加)(5/10)<br>・タイ米や黒米など数種類の米を観察させた。(5/18)<br>・「米」から連想すること、知りたいことなどをウェビングに描かせる。(5/25)<br>・学年の廊下にコーナーを設け、関係資料や市立図書館から借りた本を置いた。<br>・NHKの番組「おこめ」が参考になる。録画しておき、必要に応じて視聴させた。 |
| 6  | 追究する (14) 16   | 課題について調べる。<br><b>中間発表(6/15)<br/>計画の修正、追究の方法等の見直し</b>   | グループ     | ・協力し合って調べることができるよう、同じ課題の者同士がグループを組むようにする。<br>・本やインターネットに頼らずに、農家の人の話も聞けるようにする。                               | (社会)<br>わたしたちのくらしをささえる食料生産                    | ・「追究する」の途中で <b>中間発表の時間を設けた。</b><br><b>(本を読んで書き写すだけのグループが多いため、活動を振り返らせ、追究の方法や目的を確認させる必要があると判断した。発表会は授業参観日に行うことにした。)</b>  |
|  | まとめる (10) 12   | 調べたことを整理し、分かりやすくまとめる。  | グループ     | ・自分たちなりの工夫を生かしたまとめができるよう助言する。   | (国語)<br>言葉の研究レポート                             | ・稲や生物の観察、聞き取りやアンケート調査など、多様な調べ方があることを助言。<br>・ <b>振り返りの観点が不明確。評価カードの改善が必要。</b>  |
| 7  | 伝える (2)  | 発表会をする。(7/8)<br><b>学校開放(授業参観日)に実施</b>  | 学級       | ・聞き手に発表の内容がよく伝わるように、声の大きさや速さに注意させる。<br>・他のグループのよさに気づきながら聞くことができるよう評価カードを工夫する。                               |   |   |
|  | 振り返る (1) 2   | 活動を振り返る。<br><b>B4 の用紙 1枚に自分の取組と学習したことをまとめる。</b>  | 個人       | ・活動全体を振り返り、追究の仕方やまとめ方について評価し合い、今後の活動に生かせるようにする。   |   |   |
| <b>成果</b> 試食や田植えをしたことは、学習への関心を高めることにつながった。自分なりの課題や目的を持っていない児童がいて、意欲や学び方の個人差が大きい。田植えをすることが前提となっているが、「自分たちの学年で米づくりをしたい」と児童が思い、なぜ稲を栽培するのか、収穫した米をどうするかなど、目的をもって活動に取り組ませるしかけを考えたい。<br><b>問題点</b> 中間発表の時間を設け、相互評価を行うことは、活動の目的や方法を確認するうえで有効。課題や調べたいことが細分化してくると、追究の仕方や活動場所が多様になってくる。学年 T T での支援や保護者の協力など支援体制を充実させる必要がある。<br><b>課題</b> 児童の活動や稲の成長の様子を写真や V T R で記録しておく、振り返りや発表で活用できる。 |  |  |          |   |   | <b>振り返りの視点</b><br>ねらいの達成<br>児童の取組<br>指導の手立て<br>教材や資料<br>学習環境<br>指導体制(人的支援)<br>時間  |

**ヒント**

理由とともに、活動の過程で修正したことが具体的に記入されていると、次年度の計画を検討する際の参考になります。

## 2 計画や実践を評価し、カリキュラムの改善につなげる

総合的な学習の時間のカリキュラムは、「計画 実践 評価 改善」を繰り返していくなかで、地域や学校、児童の実態に合ったものとして洗練されていきます。計画や実践の評価は、それらが目標を達成できるものになっているかどうか判断し、改善に役立てるために行うものです。したがって、実践の記憶がはっきりしているうちに評価し、改善策を検討して記録しておくといでしょう。

### (1) チェックリストを活用して、現在の計画や取組を点検する

チェックリストは、現在の取組や状況について、あらかじめ定められた項目で短時間に点検することができ、計画や指導、条件整備等の現状について確認するのに便利です。複数の点検者が同時期に実施した場合でも、記述式に比べて集計が容易ですし、項目ごとの回答結果を数値で表すことができます。

#### 参 考

栃木県総合教育センターでは、「『総合的な学習の時間』の充実を目指して(小・中学校)《校内研修資料》」(平成13年9月発行)の中で、「総合的な学習の時間のチェックポイント」を示しています。(44ページ参照)。これらの項目は、平成14年度の完全実施を前に、様々な観点から総合的な学習の時間について見直せるよう提案したものです。現在の自校の計画と実践を再確認する際にご活用ください。

#### ヒント

複数の教職員が同じ項目について点検したときには、評価結果を確認し合い、相違点についてはその理由を探ります。教職員間で意見交換を行い、取組の現状や改善策について話し合うことが大切です。

#### 総合的な学習の時間のチェックポイント

##### 計画・準備

| 観 点                        | 項 目  |
|----------------------------|--|
| 教職員の共通理解(組織・運営)            | <input type="checkbox"/> 教職員が学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の趣旨やねらいを理解していますか。<br><input type="checkbox"/> 教職員が自校における総合的な学習の時間の方向性を把握していますか。<br><input type="checkbox"/> 一人一人の教職員の役割や分担を明確にした組織づくりがなされていますか。<br><input type="checkbox"/> すべての教職員が「計画・立案」に参画していますか。   |
| 願いや実情の把握                   | <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態や興味・関心が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 国際化、情報化などの今日的な課題や社会的要請に関わる児童生徒の実態を把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 地域の特色や実情が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 保護者の願いが把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 教職員の特性や児童生徒への期待が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 自校の特色が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 自校の教育課題が明確になっていますか。 |
| 育てたい児童生徒像の明確化と培いたい資質・能力の設定 | <input type="checkbox"/> 学校として育てたい児童生徒像が明確になっていますか。<br><input type="checkbox"/> 育てたい児童生徒像と学校教育目標との整合性が図られていますか。<br><input type="checkbox"/> 育てたい児童生徒像に基づき、自校としての培いたい資質・能力を設定していますか。<br><input type="checkbox"/> 自校で設定した培いたい資質・能力は、学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の趣旨やねらいを踏まえていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の発達段階に応じて資質・能力が設定されていますか。  |

**(2) 点検票を活用し、「計画 - 実践 - 評価 - 改善」の流れを意識して実践を振り返る**

実践を評価し改善策を講じるためには、評価する項目ごとに問題点や改善策を記入する記述欄を設けた点検票を用いることも有効です。実践についての反省が記述されるので、改善に向けた多様な意見を得ることができます。次に点検票の例と作成の手順を示します。

**参 考**

見直しに関わる情報の収集

自校の総合的な学習の時間のねらい(学校教育目標や指導の重点なども含む)及び学習指導要領等に示された留意すべき点等について情報を収集し、これを見直しの観点(評価規準)の作成に利用します。

点検者、回数、時期の決定

点検者(グループ)は、活動実施者と計画立案者が原則です。時間割や日課表、学校行事との関連など学校全体に関わることについては、教務主任や学習指導主任などが学期に1回程度行い、学年・学級の指導計画等については、学年主任、学級担任、教科主任などが活動のまとめごとに行うとよいでしょう。

点検票の作成

普段の多忙な状況を考慮し、短時間で点検できるように項目を絞った点検票を、必要な内容ごと(活動のまとめごと)に作成しておきます。

項目の選定については、まず、で収集した情報(その学習のねらいや留意点)を吟味して、評価する項目と評価の観点(評価規準)を絞ります。次に、その学習を効果的にするための条件整備に関する項目を設定します。また、点検者が気付いたものを追記できるように空欄を設けることもよいでしょう。点検票には、必ず「改善策」の欄を設け、改善に関するコメントを記録できるようにします。

**ヒント**

評価の内容や項目を細かく分けすぎると、記入しにくく時間もかかり、形式的な評価になってしまいます。共通項目を三つ程度に絞り、あとはその他の欄を設けて、時期や単元に応じて項目を追加できるようにするとよいでしょう。

カリキュラム点検票

反省や振り返りだけでなく、改善策を考えて記入します。

|             |  |
|-------------|--|
| 学年、教科・領域等   |  |
| 学習単元名 学習活動名 |  |

| 評価項目    | 評価規準        | 評価      | 成果または問題点                    | 改善策   |
|---------|-------------|---------|-----------------------------|---|
| 学習活動の状況 | 目標の達成       | A B C D | 体験活動中心で学びが十分ではなかった。         | 追究の活動と体験活動の関係つけるよう見直す。                                  |
|         | 児童の取組       | A B C D | 児童は主体的に学習に取り組んでいたが          | 紙にまとめるほか、インタビューやポスター作り等の工夫をさせる。                         |
|         | 指導の手立て      | A B C D | 指導や支援は適切で十分だったか             | 学年担当+1名で指導できたので、よかった。さらに1人1人への支援を充実する。                  |
| 学習活動計画  | 学習目標        | A B C D | ねらいはよいが、教師が学習中にもう少し意識できるとよい | 打ち合わせの際に、目標を確認する。                                       |
|         | 学校教育目標等との関連 | A B C D | 指導の重点や学習指導要領の要点をふまえたか       | 学習指導要領改訂の要点からの見直しが必要                                    |
|         | 指導計画        | A B C D | 内容、時間、方法、時期などが適切であったか       | 追究に必要な時間が不足していた。体験活動と追究活動の検討により時間を有効に使う工夫が必要            |
|         | 教科等との関連     | A B C D | 教科等と関連つけて実施したか              | 関連が明確に示されていない。次年度の計画に記入欄を設けて明確化する。                      |
| 条件整備    | 学習環境の整備     | A B C D | 学習に役立つ諸環境の整備に努めたか           | ボランティア・ティーチャの参加が少なかった。説明の機会を増やし、気軽に参加できる雰囲気づくりをする。      |
|         | 諸準備・渉外      | A B C D | 必要に応じて準備や、外部連携を行ったか         | 多くの地域の方がボランティアティーチャとして参加してくれた。依頼文書を今年度の反省を生かしてわかりやすくする。 |
| その他     | 打合せ         | A B C D | 事前に打ち合わせができたか               | 前日に打合せの時間を確保したため、内容等が確認できた。今後も継続したい。                    |
|         |             | A B C D |                             |   |

こうした点検票を用いて評価することで、成果と課題が明らかになり、すぐには改善できないことについても具体的な情報が記録されるため、後日の判断が容易になります。

当事者が手順に従って、計画・実施から自己評価・具体的な改善までの責任を持つ体制にすることは、カリキュラムの経営をシステムとして行ううえでは特に重要です。また、カリキュラムの評価を行うことにより評価規準を教職員が共有できる利点があります。

**(3) 単元終了後に、実践について振り返り、成果や課題を確認する**

単元が終了したら、学習活動や指導について振り返り、どこがよく、どこが悪かったか、悪かった点はどうすればよかったのかということを検討し、まとめておきましょう。指導に当たった教職員が集まり、実践について振り返ることが大切です。次の単元が始まってからでは、忙しさに追われて話し合う時間が取れなかったり、記憶が薄れてしまったりして、十分な振り返りができなくなってしまう恐れがあるので、単元が終了したらできるだけ早く話し合うようにします。

その際、児童の作品や自己評価カードなどを見ながら、単元の目標に照らして学習活動や指導について検討し、成果や課題を確認するようにします。また、前述したチェックリストや点検票などを用いると、共通の観点で話し合うことができるので、事実についての多面的な検討が可能になります。話し合うことの観点が明確になっていれば、時間を有効に使って協議することもできます。

**参 考**

この事例では、学習の過程で児童や教師が価値あると認めたものを選んで児童がポートフォリオを作成し、教師は、選んだ理由（児童のよさや成長の様子）と支援したことを書き添えて記録に残しています。こうした資料を見ながら、児童の様子と指導について話し合うことは、事実に基づいた評価と検討を行うのに有効です。

ポートフォリオ評価の実例 (3)年 11月21日(金)

単元名: 学校を花でいっぱいしよう  
活動: 花だんのきんれ (土づくり)

|           |  |  |
|-----------|--|--|
| 児童の様子     |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>5月に自分の家にある鉢の種を植えたいと考え、ホットプレートで土を温め、花だんに植えかえた。</li> <li>11月もまになり、そろそろ秋冬の苗を植えるために、花だんの土づくりをすることになったが、鉢の木の中に、まだ実のはじりないものもあった。</li> <li>土づくりによって、鉢の木がめがけたり、傷つけられないように、プランターに植えかえり、置き場を考えた。</li> </ul> |
| 教師と児童の見取り | <p>「遠くで自分の植えたいものを見つけ、ポットで大切に種から苗まで育てたこともあり、思い入れがあるようだ。教師が「冷えてきた種を育てて、残しあとは処分してもいいのでは?」と問いかけたら児童が「先生、まだほじけていない実がこんなにありますよ!」プランターに植えかえて育ててもいいですか」と申し出た。プランターに植えかえるのは土づくりがめがけたり、傷つけられるのを心配しているようだ。以前、除草作業中に何本かめがけや植えかえられた経験があるようだ。</p> <p>自分の判断でプランターに植えかえたことは、よい判断なので、実が育てば種になるまで根気強く世話をしようと思った。</p> |  |

児童が自分からファイリングしたときには、その理由も書いてください。  
またそこから教師は何を見取ったのか書いてください。  
様子は記録のコピーでも良いし、デジカメで姿や作品等を撮ったでもかまいません。  
教師から見取ったときには、児童になんと伝えたいかも書いてください。

#### (4) 各学年の取組を報告し、活動や支援の充実に向けた方策について協議する

授業期間中は、現在行っている授業の進め方や準備について話し合っているにもかかわらず、単元全体を見通して実践を振り返り、活動や指導について検討する時間は十分にとれないという現状があります。そこで、長期休業中の校内研修などに、それまでに実施した内容の振り返りと改善に向けた協議を行っている学校も少なくないようです。

このとき、学年ごとの話し合いだけでなく、他の学年と合同で実施するという方法もあります。各学年で取り組んできた学習の成果と課題を他の学年に報告するのです。授業を展開する過程で気付いたことや実践の成果を持ち寄り、活動や支援の改善について協議することは、各学年で育てようとする資質・能力を確認し、学習内容の系統性を検討するよい機会です。各学年の取組を報告し合い、学年を越えて意見交換や協議を行うことで、児童の実態や指導についての教職員間の理解が深まります。こうした話し合いが、次年度の単元構成や学習活動の支援につながります。

総合的な学習の時間を通して何を育てようとしているのか、各学校で定めた目標や指導の方針について確認する意味においても、教職員が共同でカリキュラムの検討を行うことが大切です。こうした協議を繰り返して創られていくカリキュラムは、教職員の日々の実践と経験が凝縮され、実効性の高いものになっていきます。



#### (5) 「一歩前進」を目指し、教職員が共同してカリキュラムを改善していく

教科等と異なり総合的な学習の時間では、目標や内容が学習指導要領に示されていません。そのことは、学校がカリキュラムを編成し実行するという絶好の機会を得たことを意味します。この時間を生かすことによって、創意工夫を生かした教育活動が一層展開しやすくなり、児童の実態に合った特色ある学校づくりが推進できます。

教師が自校のカリキュラムに意識を向けることによって、より実りある総合的な学習の時間が実現するものと考えられます。すなわち、一人一人の教師が、学校全体の教育活動にかかわりを持ち、学校の計画と改革に参画するということです。ただそれは、決して特別なことをするわけではありません。実際に指導に当たる教師が、児童の具体的な姿と進歩の状況を見取るとともに、学年会や他学年との話し合いのなかで、授業を改善していくことが大切なのです。教師集団の話し合いによってこそ、日頃の授業に支えられたカリキュラムが成り立ちます。

そして、カリキュラムの開発、あるいは改善については、実践を通して、少しずつよりよいものにしていくという意識で取り組みたいものです。「現在の取組の成果や課題から学び、一歩前進を目指す」という、地に足の着いた積み重ねが大切です。

## 資料

### 「総合的な学習の時間」に関するアンケート

総合的な学習の時間の指導の状況や成果を把握するために、県内の公立小学校及び中学校の教員を対象に実施した意識調査です。アンケートの結果と調査用紙を掲載しています。

### 「総合的な学習の時間」のチェックポイント

総合的な学習の時間の「計画・準備」、「教師の支援」について、様々な観点から見直すことができるようになっています。自校の計画と実践を再確認する際に、校務分掌や役割によって必要と思われる観点を選んでご活用ください。

## 【資料】

### 「総合的な学習の時間」に関するアンケート

#### 調査の概要

- 1 調査対象 : 教職5年目、10年目、20年目研修受講者  
(小学校 243名 中学校 219名)
- 2 調査日 : 平成16年11月4日、12月5日、平成17年1月7日
- 3 調査方法: 質問紙調査
- 4 調査項目: Q1 総合的な学習の時間に対する意識  
Q2 総合的な学習の時間における指導  
Q3 児童生徒に見られた変化  
Q4 自校の教育活動への影響

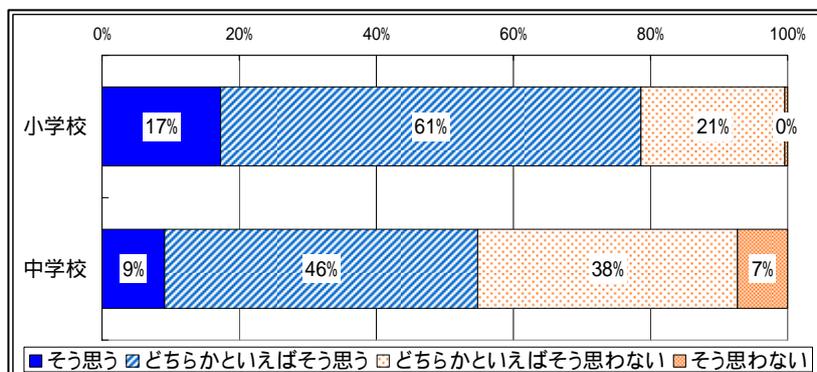
#### 調査結果

##### 1 総合的な学習の時間に対する意識

小学校では8割、中学校では5割の教員が、総合的な学習の時間の指導はやりがいがあると思っている。

Q1 あなたは、「総合的な学習の時間」の指導を「やりがいがある」と思いますか。

「総合的な学習の時間の指導はやりがいがあると思うか」という問いに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた(肯定的な)回答の割合は、小学校では、約8割、中学校では約5割である。

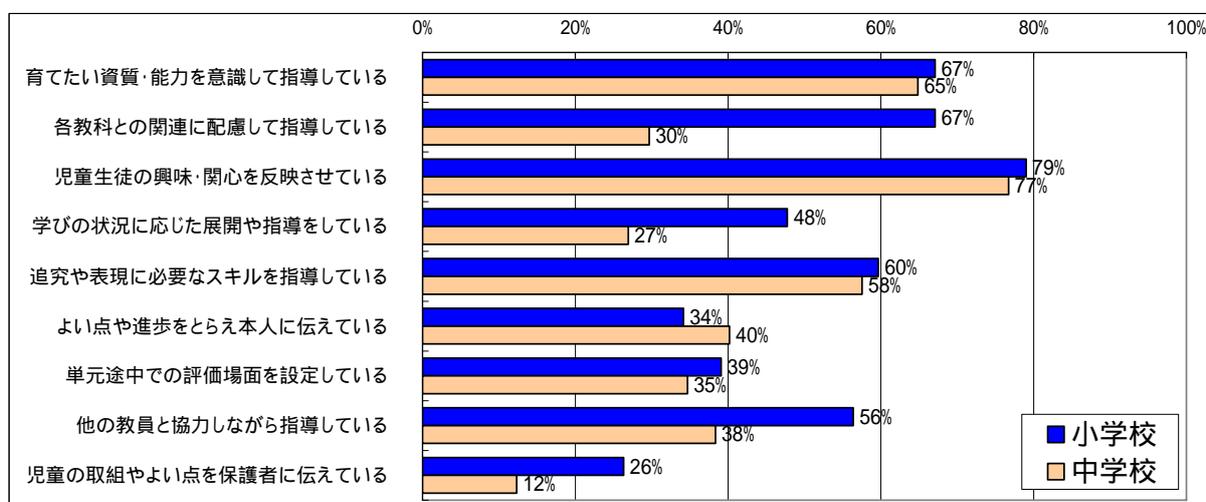


## 2 「総合的な学習の時間」における指導

興味・関心を学習に反映させるとともに、育てたい資質・能力を意識して指導している。評価に関する取組は十分ではない。

約8割の教員が、児童生徒の興味・関心をテーマや学習に反映させている。また、育てたい資質・能力を意識しながら、追究や表現に必要なスキルを指導している。しかし、児童生徒の取組やよい点を本人や保護者に伝えたり、指導に生かしたりする取組については十分ではない。

Q2 あなたは、「総合的な学習の時間」を指導する際に、以下のことを行っていますか。(複数回答)



「児童生徒の興味・関心を反映させている」が最も多く、小・中学校ともに約8割の教員が回答している。「育てたい資質・能力を意識して指導している」、「追究や表現に必要なスキルを指導している」の回答も多い。(6割から7割)

「よい点や進歩の状況をとらえ本人に伝えている」、「単元途中で自己評価や相互評価を行う場面を設定している」と回答している教員は、3～4割にとどまっている。また、「学びの状況に応じた展開や指導をしている」は、小学校では約5割、中学校では約3割である。さらに、「児童生徒の取組やよい点を保護者に伝えている」は、小学校では約2割、中学校では約1割である。

「各教科との関連に配慮して指導している」、「他の教員と協力しながら指導している」については、校種の違いによる差が大きく、前者では、小学校が約7割、中学校が約3割、後者では、小学校が約6割、中学校が約4割である。中学校における教科・教員間の連携の難しさが見えてくる。

### 課題

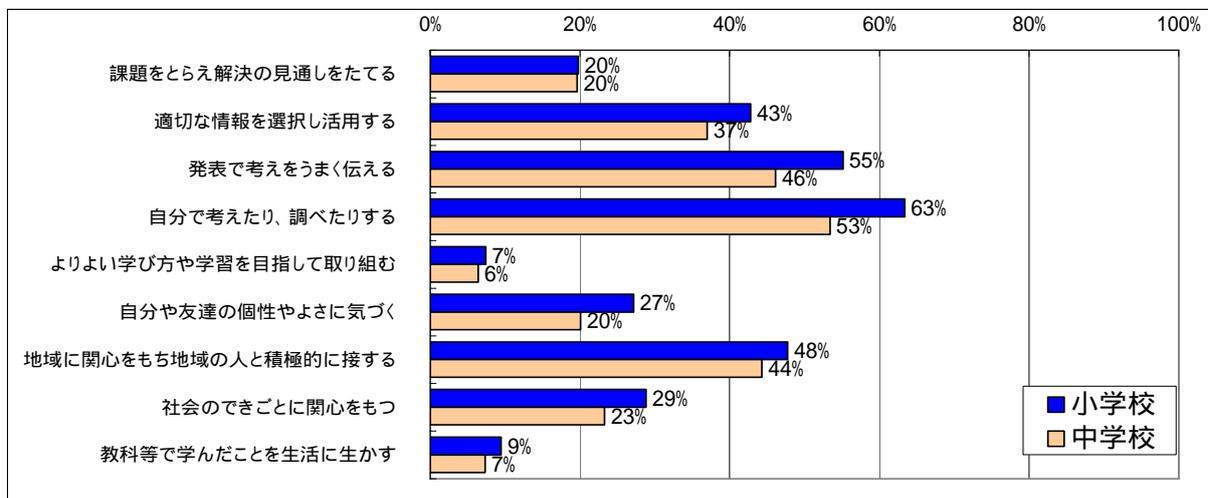
評価に関する取組が行われるようになってきてはいるが、まだ十分に組み立てていない教員も多い。よい点や進歩の状況等を児童生徒が自覚し、よりよい学習につなげていくことができるよう、保護者への情報提供も含め、評価の工夫や適切な指導について充実させていくことが課題である。

### 3 児童生徒にみられた変化

自分で調べたり考えたりすることや、考えをうまく伝えることができるようになってきている。  
 学んだことを生活に生かしたり学習を発展させたりすることは十分ではない。

約5割の教員が、「報告や発表などで考えをうまく伝えられるようになった」と答えている。「自分で考えたり調べたりする」、「地域への関心や地域の人への接し方」も多い。一方、「よりよい学び方や学習を目指して取り組む」、「教科等で学んだことを生活に生かす」については1割に満たない。

Q3 「総合的な学習の時間」を実施する以前と比べて、児童生徒には、どのような変化があましたか。(複数回答)



小・中学校ともに、回答が4割を超えたのは、「自分で考えたり、調べたりする」、「発表で考えをうまく伝える」、「地域に関心を持ち地域の人と積極的に接する」である。「適切な情報を選択し活用する」は約4割の教員が回答している。

調べて表現するという学習が行われており、そうした学習を通して、自分で考えたり調べたりする態度や、必要な情報を集めたり工夫して表現したりする力が身に付いてきているととらえている教員が多いものと思われる。また、地域に出て調査活動を行ったり施設等を訪問したりする中で、地域の人やものに学ぶ姿勢や態度が育ってきているととらえている教員も少なくない。

「課題をとらえ解決の見通しをたてる」は2割、「よりよい学び方や学習を目指して取り組む」、「教科等で学んだことを生活に生かす」は、それぞれ1割に満たない。学んだことや学び方を生活に生かしたり、学習を発展させたりすることを教員がとらえることが難しいこと、また、そうしたことが教員や児童生徒にあまり意識されないまま学習が行われていることなどが、理由として考えられる。

#### 課題

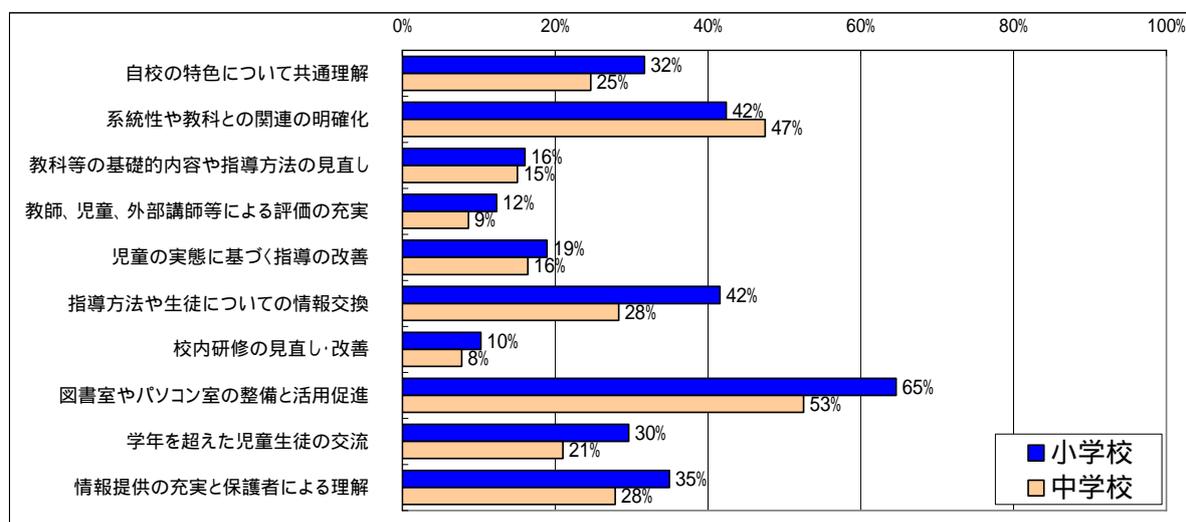
総合的な学習の時間においては、主体的な学習態度の育成や、教科等で学んだことがその後の学習や生活に生きて働くようになることが大切である。そのような児童生徒の姿をとらえるのは難しいことではあるが、児童生徒自身が学習の見通しをもって主体的に取り組んだり、よりよい学び方や学習を目指したりしていけるよう、評価と指導の充実を図っていく必要がある。

#### 4 自校の教育活動への影響

**調べ学習を行うための校内環境が整備されてきた。  
児童生徒の実態に基づく指導の充実や校内研修の改善には至っていない。**

半数以上の教員が、「図書室やパソコン室等の整備が進み、活用されるようになった」と答えている。しかし、「教師、児童生徒、外部講師等による評価の充実」、「校内研修の見直し・改善」は、1割程度である。

Q4 あなたの学校では、「総合的な学習の時間」を実施することにより、学校の教育活動には、どのような影響がありましたか。（複数回答可）



「図書室やパソコン室の整備と活用促進」が最も多く、小学校では6割を、中学校では5割を超える教員が回答している。次いで、「系統性や教科との関連の明確化」が多く、小学校、中学校ともに4割を超えている。

「教師、児童生徒、外部講師等による評価の充実」、「児童生徒の実態に基づく指導の改善」、「教科等の基礎的内容や指導方法の見直し」、「校内研修の見直し・改善」については、それぞれ2割未満である。

#### 課題

総合的な学習の時間は、児童生徒や教職員の实態、保護者や地域との関係など、それぞれの学校の実情に応じて展開されるものである。自校の教育活動における「総合的な学習の時間」の位置付けや意味を再確認すること、児童生徒一人一人の学びの状況を見取りながら学習を組み立てていく力を高めていくことが課題と思われる。児童生徒の実態を適切に評価するとともに、各教科等の学習も含めた教育活動の充実・改善を目指して、学校全体として取り組んでいくことが大切である。

## 「総合的な学習の時間」に関するアンケート調査

当センターでは、「総合的な学習の時間」をより充実したものとするために、指導及び援助の在り方や具体的な方策について検討し、学習指導の参考となる資料を作成していきたいと考えています。

そこで、「総合的な学習の時間」の指導に当たっている先生方に、実際に取り組みられていることや、感じていることなどをお聞きします。また、資料作成の折、参考にしたい取組について、学校に問い合わせることがあるかもしれませんので、勤務校の記入についてもご協力をお願いします。

立

小 ・ 中 学校

Q1 あなたは、「総合的な学習の時間」の指導を「やりがいがある」と思いますか。  
あてはまるものをア～エの中から一つ選んで をつけてください。

ア そう思う    イ どちらかといえばそう思う    ウ どちらかといえばそう思わない    エ そう思わない

Q2 あなたは、「総合的な学習の時間」を指導する際に、以下のことを行っていますか。  
あてはまるものすべてに をつけてください。(複数回答可)

- (1)
- 1 育てたい資質・能力を意識して指導にあたっている。
  - 2 各教科等における学習との関連に配慮しながら指導にあたっている。
  - 3 児童生徒の興味・関心を、テーマや学習内容、活動に反映させている。
  - 4 児童生徒の学びの状況に応じて計画を見直し、学習の展開や指導を工夫している。
  - 5 探究活動、情報の整理、まとめ・表現等に必要なスキルを指導している。
  - 6 児童生徒のよい点や進歩の状況などを様々な場面でとらえ、本人に伝えている。
  - 7 単元の途中で、自らの学習状況を確認するための自己評価や相互評価を行う場面を設定している。
  - 8 学習内容や児童生徒の状況等について他の教員と話し合いながら協力して指導している。
  - 9 児童生徒の取組の様子、よい点や進歩の状況などを積極的に保護者に伝えている。
  - 10 その他 ( )

(2)

|          |  |
|----------|--|
| 項目<br>番号 | (1)で をつけた項目のうち、特に工夫していることを一つか二つ選んで、その内容を具体的にお書きください。 |
|          |  |

Q3

「総合的な学習の時間」を実施する以前と比べて、児童生徒には、どのような変化がありましたか。あてはまるものすべてに をつけてください。(複数回答可)

- 1 課題をとらえ、解決のための見通しや計画をたてられるようになった。
- 2 適切な情報を選択し、活用する力が高まった。
- 3 報告や発表などで考えをうまく伝えられるようになった。
- 4 自分で考えたり、調べたりするようになった。
- 5 よりよい学び方や学習活動を目指して取り組むようになった。
- 6 自分や友達の個性やよさに気付くようになった。
- 7 地域のことに興味をもったり、地域の人と積極的に接したりするようになった。
- 8 社会のいろいろなできごとに関心をもつようになった。
- 9 各教科等(道徳、特活、総合を含む)で学んだことを生活の中で生かすようになった。
- 10 その他( )

Q4

あなたの学校では、「総合的な学習の時間」を実施することにより、学校の教育活動には、どのような影響がありましたか。あてはまるものすべてに をつけてください。(複数回答可)

- 1 自校の特色について話し合い、教職員間の共通理解が進んだ。
- 2 学年の系統性や教科等との関連を明確にした指導計画の見直しにつながった。
- 3 各教科等で指導すべき基礎的内容や指導方法について見直すようになった。
- 4 教師による評価、児童生徒による自己評価や相互評価、外部講師による評価が充実した。
- 5 児童生徒の実態から指導の成果や課題を評価し、指導の改善を行うようになった。
- 6 指導方法や児童生徒の様子について、教員間で話し合う機会が多くなった。
- 7 必要な研修内容を考え、校内研修を見直すようになった。
- 8 学校図書館やコンピュータ室等の整備が進み、活用されるようになった。
- 9 学年や学級を越えた児童生徒の交流が増えた。
- 10 保護者や地域の方々への情報提供の機会が増え、学校に対する理解が深まった。
- 11 その他( )

Q5

あなたは、「総合的な学習の時間」を実施するなかで、どのようなことにやりがいやおもしろさを感じましたか。児童生徒の学びの姿、保護者や地域の方々の反応、教職員間の会話などから、印象に残っていることをご紹介ください。

ご協力ありがとうございました。

## 総合的な学習の時間のチェックポイント

### 計画・準備

| 観 点                                    | 項 目  |
|--|--|
| <b>教職員の共通理解（組織・運営）</b>                 | <input type="checkbox"/> 教職員が学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の趣旨やねらいを理解していますか。<br><input type="checkbox"/> 教職員が自校における総合的な学習の時間の方向性を把握していますか。<br><input type="checkbox"/> 一人一人の教職員の役割や分担を明確にした組織づくりがなされていますか。<br><input type="checkbox"/> すべての教職員が「計画・立案」に参画していますか。   |
| <b>願いや実情の把握</b>                        | <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態や興味・関心が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 国際化、情報化などの今日的な課題や社会的要請に関わる児童生徒の実態を把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 地域の特色や実情が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 保護者の願いが把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 教職員の特性や児童生徒への期待が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 自校の特色が把握できていますか。<br><input type="checkbox"/> 自校の教育課題が明確になっていますか。 |
| <b>育てたい児童生徒像の明確化と<br/>培いたい資質・能力の設定</b> | <input type="checkbox"/> 学校として育てたい児童生徒像が明確になっていますか。<br><input type="checkbox"/> 育てたい児童生徒像と学校教育目標との整合性が図られていますか。<br><input type="checkbox"/> 育てたい児童生徒像に基づき、自校としての培いたい資質・能力を設定していますか。<br><input type="checkbox"/> 自校で設定した培いたい資質・能力は、学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の趣旨やねらいを踏まえていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の発達段階に応じて資質・能力が設定されていますか。  |
| <b>テーマの設定（学校、学年、学級、活動班など）</b>          | <input type="checkbox"/> テーマの設定に当たっては、総合的な学習の時間の趣旨やねらいを踏まえていますか。<br><input type="checkbox"/> テーマは教育的価値があり、主体的な探究が可能なものですか。<br><input type="checkbox"/> 発達段階や児童生徒の特性を踏まえたテーマ設定になっていますか。   |

| 観 点                            | 項 目   |
|--------------------------------|---|
| <b>年間指導<br/>（活動）<br/>計画の作成</b> | <input type="checkbox"/> 「何をやるか」よりも「何のためにやるのか」を確認して、年間指導（活動）計画の作成をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 発達段階に応じて培いたい資質・能力を明確にし、年間指導（活動）計画を作成していますか。<br><input type="checkbox"/> 各教科等との関連を年間指導（活動）計画に明示するなどの工夫をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 学習活動に応じた学習形態や指導形態に配慮して、年間指導（活動）計画を作成していますか。<br><input type="checkbox"/> 年間指導（活動）計画にガイダンスの時間を十分にとっていますか。<br><input type="checkbox"/> 全学年を見通した系統的な年間指導（活動）計画を作成していますか。<br><input type="checkbox"/> 評価の内容（評価項目・評価の観点）等について教師間で共通理解を図っていますか。<br><input type="checkbox"/> 培いたい資質・能力を評価できる計画になっていますか。 |
| <b>活動計画の<br/>作成</b>            | <input type="checkbox"/> 培いたい資質・能力を踏まえた活動計画になっていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の特性や地域の特色を生かした活動計画になっていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の興味・関心等を把握した活動計画になっていますか。<br><input type="checkbox"/> 活動計画に各教科等との関連を明記していますか。<br><input type="checkbox"/> 地域の公共施設や人材等をどこでどのように活用するかが、活動計画の中に明記されていますか。<br><input type="checkbox"/> 問題解決的な過程を踏まえていますか。（単なる調べ学習やイベント、物づくりに終わるような活動計画になっていませんか。）<br><input type="checkbox"/> 活動ごとの目標に応じた評価項目を設定していますか。  |
| <b>学習環境の<br/>整備</b>            | <input type="checkbox"/> 学校内の教室・機器・教材等の学習環境を把握し、整備していますか。<br><input type="checkbox"/> 情報機器や学校図書館等の活用・管理の体制が整えられていますか。<br><input type="checkbox"/> 地域の教育資源（人・もの・施設）の情報収集をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 家庭や地域から具体的にどのような協力が得られるか、その実情を把握していますか。<br><input type="checkbox"/> 計画の段階で教職員の指導体制を十分に整えていますか。  |
| <b>家庭・地域と<br/>の連携</b>          | <input type="checkbox"/> 保護者や地域の人々に、自校の総合的な学習の時間について理解してもらえるような啓発活動を行っていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒が校外における主体的な体験活動ができるように、必要に応じて保護者や地域の協力機関とのネットワークづくりをしていますか。<br><input type="checkbox"/> 他校との情報交換または小・中・高の連携を図っていますか。   |

教師の支援

| 観 点         | 項 目  |
|-------------|--|
| 学習活動の展開     | <input type="checkbox"/> 児童生徒は、各自の課題設定の手順について理解していますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒が自ら課題を見付けられるよう、十分な時間を確保していますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒が視野を広げ、価値ある課題に気付くよう、知的好奇心に働きかける多様な活動（情報収集や体験活動の設定等）を準備していますか。  |
| 課題の設定       | <input type="checkbox"/> 児童生徒が問題意識をもち、自らの課題とできるよう、地域や生活と結び付いた身近な素材などを取り入れる工夫をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の興味・関心が持続する課題となるように配慮していますか。<br><input type="checkbox"/> 課題を見いだせない児童生徒に対して、教師が課題の例を示したり、複数の課題の中から選択させたりするなどの適切な支援をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の課題の変更については、それに応じることができるような支援体制、相談体制を整えていますか。<br><input type="checkbox"/> 十分な見通しをもって追究できるような課題の設定に向け支援していますか。   |
| 探究活動・まとめ・発展 | <input type="checkbox"/> 培いたい資質・能力を意識して指導にあたっていますか。<br><input type="checkbox"/> 年度途中でも必要に応じて年間指導計画を弾力的に見直していますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の発達段階に応じた学習内容や学習活動になっていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒が主体的に活動できるよう十分な時間を確保していますか。<br><input type="checkbox"/> 安全面について十分配慮し、不測の事態への対処方法を確認していますか。<br><input type="checkbox"/> ティーム・ティーチング（外部講師も含む）等、教師間の密接な連携を図って指導体制を整えていますか。<br><input type="checkbox"/> 活動内容に合うような学習形態を工夫していますか。<br><input type="checkbox"/> 課題の追究方法を児童生徒が理解できるよう適切な助言をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の活動の経過や様子を踏まえ、次の時間に生かせるような助言ができていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒にゆだねる場面と教職員が積極的に指導する場面が明確になっていますか。<br><input type="checkbox"/> 体験活動や様々な活動は、課題を追究するため、課題を解決するためなど、目的を明確にして実施していますか。<br><input type="checkbox"/> 活動のマナーやコミュニケーション能力（あいさつ、手紙、電話、インタビューの仕方など）について適切な助言をしていますか。 |

| 観 点   | 項 目   |
|---|---|
| <b>学習活動の<br/>展開</b><br><br><b>探究活動・<br/>まとめ・<br/>発展</b> | <input type="checkbox"/> 学習のまとめに際して、まとめ方や発表の方法について適切な助言をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 学習の成果を振り返ることで、自信をつけたり、新たな課題を発見したりするような場面を設定していますか。<br><input type="checkbox"/> 学習の成果を地域に発信するなど、今後の学習の励みとなるような工夫をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 学習の成果を日常の生活に生かしたり、自己の生き方に結び付けたりする方法を考える機会を設けていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒による自己評価・相互評価、教師による評価、外部講師等による評価など多面的な評価を行っていますか。<br><input type="checkbox"/> 児童生徒の意欲を喚起し、学習活動に結び付けられるような適切な評価をしていますか。<br><input type="checkbox"/> 評価によって児童生徒に学習の振り返りを促していますか。<br><input type="checkbox"/> 評価によって児童生徒が自分のよさやお互いのよさを見いだしていますか。 |
| <b>学習環境の<br/>整備・拡充</b>                                  | <input type="checkbox"/> 校内にある施設・設備等を有効に活用していますか。<br><input type="checkbox"/> 事前に、活用する場所や施設の状況について下見などを行い、確認していますか。<br><input type="checkbox"/> 渉外のための窓口を設置し、協力を依頼できる施設や人材を発掘し、施設・人材リストとして蓄積していますか。   |
| <b>地域の教育<br/>力の活用</b>                                   | <input type="checkbox"/> 保護者や地域の人々へ協力を依頼する際には、学校側のねらいや意図、具体的な協力内容等が明確に伝えていますか。<br><input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間を進めるにあたって、保護者や地域の人々の意見を聞く機会を設けていますか。<br><input type="checkbox"/> 地域の施設や人材を活用するにあたって、関係施設や講師と十分な打合せをしていますか。<br><input type="checkbox"/> 外部講師と役割を分担して適切な指導をしていますか。  |
| <b>各教科等と<br/>の関連</b>                                    | <input type="checkbox"/> 各教科等と総合的な学習の時間との共通点と相違点とを明らかにしたうえで、活動計画を組み立てていますか。<br><input type="checkbox"/> 各教科等でこれまでに習得した技能や知識等を、総合的な学習の時間で生かしたり、また、総合的な学習の時間で学んだことを各教科等で生かしていますか。<br><input type="checkbox"/> 学習活動の展開の中で、各教科等での学びを総合化しようとする意識で児童生徒に指導や支援をしていますか。  |

**実りある「総合的な学習の時間」の実現のために  
実践から学ぶ指導の充実とカリキュラムの改善**

発行 平成18年3月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070  
TEL 028-665-7204  
FAX 028-665-7303